455 滿蒙事報社編

特232
87

貌全の古家

秘宝 内蒙古
謎の 外蒙古

20 sen

始

特 232
87

滿蒙事報社編

秘境の蒙古の全貌

東京 東亞書房

11. 8. 26

謎の秘境

蒙古の全貌

目次

はじめに……（一）
地域……（二）
曾ては東亞の王者……（五）
元帝國の崩壞以後……（八）
王公と旗・部・盟の制度……（一一）
原始的な民情……（一四）
交通・通信・運輸……（二一）
畜産……（二四）
林産と鑛産……（二六）
◇外蒙古……（二八）
◇西部內蒙古……（二九）
◇東部內蒙古……（三一）
商業……（三四）
外蒙共和國……（三六）
更生の東部內蒙古……（三九）
滿洲帝國の對蒙政策……（四二）
動く西部內蒙古……（四四）
ソ聯の魔手と蒙古……（四七）

凡例

一、本書は蒙古とはどんな所かを認識して頂く爲めに編述しました。

二、從つて過古の蒙古は勿論、現在如何なる情勢の下にあるかゞ記述されてあります。

三、地名や人名には出來るだけの振假名を附しました。

四、その振假名のうち、漢音讀みのものと吳音讀みのものが混り、或は更に蒙古風な讀方のものまであることを奇異に感じられる向きもありませう。

五、が、これは彼の地にある邦人間に通用してゐるものをその儘用ひた爲めの結果です。

謎の秘境蒙古の全貌

滿蒙事報社調査部

はしがき

若しも第二次世界大戰が勃發したと假定すれば、その舞臺は當然西藏、新疆、蒙古でなければならない、とさへ云はれてゐる。これは單なる假定にしか過ぎないが、さういふ假定がなされる程、事程左樣に世界の眼はアジアの中樞地帶に注がれるやうになつたのだ。もつと手近なところでは、外蒙を席捲して支那本部に迫りつゝあるソヴイエート聯邦の魔手を見る。東亞平和の鍵を握る我が日本に取つてこれはまさしく放任すべからざる問題であらう。この機に臨み本社は蒙古最近の全貌を傳へ、以て我が同胞の關心に訴へたいと思ふ。

地域

蒙古は中華民國の西北に位し、東は大興安嶺を越へて滿洲に續き、西は阿爾泰山脈から甘肅新疆に連り、北は西興安嶺・薩彦山脈を負ふて露領シベリヤに接壤し、南は萬里の長城を以て中華民國本部に相對してゐる不正四邊形の地域を占めてゐる。その總面積は約二十四萬五千方哩に達してゐる。

地勢は概ね大高原で、西部は山岳・河川・湖沼に富み、東部は曠漠たる沙草地帶である。興安嶺山脈・薩彦山脈・阿爾泰山脈の三大山脈が走り、エニセイ・セレンガ・オノン・ケルレン等の諸大河は何れも薩彦山脈にその源を發して北方に流れてゐる。有名なゴビの大沙漠は全域を東西に縱貫し、漠南を內蒙古、漠北を外蒙古に區分してゐる。

外蒙古は現在外蒙自治共和國として獨立し、內蒙古の東部、卽ち現興安省・熱河省及び吉林省・濱江省・龍江省に屬する蒙古は滿洲帝國の版圖に入り、西部卽ち現察哈爾省、綏遠省、寧夏阿拉善地方は中華民國の支配下にある。であるから全蒙古は現在政治的には三分されてゐる譯だ。尤も最近の北支の情勢では察哈爾省や綏遠省が如何になりゆくかは一寸未知數である。

蒙古は地域廣大なためその氣候に就ては一概に云ふことは出來ないが、概して冬期が永く夏季短く、春と秋とは殆んど無いとだけは云へる。冬期の氣溫は零下五十度內外にまで達し、夏期の日中には炎熱百度以上になることも珍らしくない。又、日中は灼く如く暑熱を覺えても、夜分になると零下五度にも急降下することさへあり、極端な大陸的氣溫に支配されてゐる。降雨降雪は極めて尠く、從つて空氣は極度に乾燥し、風は多く北方から吹き來り所謂朔風胡砂を捲くといふあの形容にそつくりなのである。然し夏季にはさしもの曠野も滿目紅黃紫白の草花に覆はれ、放牧の家畜は青草に飽食して肥え太り、牧夫の鞭の音にあやつられて嬉々と移動する。此處ならでは見ることの出來ぬ情景の展開である。

民族

蒙古民族は人種學上並に民族學上から云へば日本人、朝人鮮、固有滿洲人、トルコ人等と共に、等くしウラル・アルタイ系又はツラン系人種に屬し、言語學上ではウラル・アルタイ語族に屬するものである。ウラル・アルタイ系人種の特質は、黃赤白色の皮膚、黑く斜めに切れた眼、短く粗い頰髭、黑く剛直な頭髮、秀でた顴骨、低く厚い鼻、廣頭型若しくは亞廣頭型頭蓋

骨を有し、言語は膠着語、原始宗教としては太陽崇拜、長上に對する崇敬服從の念に富み、信義を重んじ情誼に厚く、性質溫和であるが一度び起てば勇猛果敢、謀略に長じて寡慾無愛嬌等々であるが、この特質を最も濃厚に保有してゐるのが蒙古民族である。卽ち蒙古民族は日・鮮・滿の所謂北方アジアの諸民族と同系の祖先から出發し、同型の體質、同類の文化、同系の言語を有するものであつて、我々日本人とは全く同血同種の民族である。その總人口は約三百萬人と推定され、地理上政治上からは左の五種族に大別されるが、ロシア・アフガニスタン、新疆中央アジアにも若干は散在してゐる。

ブリアート蒙古——露領バイカル湖を中心として居住してゐるもので、ブリアート・モンゴル自治共和國としてソヴエート・ロシアの一聯邦を形成してゐる。文化的には蒙古族中最も進歩してゐる種族で、その一部はソ聯の壓制から逃れ内蒙古地方に移住してしまつた。

ハルハ蒙古——西部内蒙古の西北部から外蒙古の東部一帶に居住する成吉思汗の後裔で、最も勇敢且つ謀略に長じてゐる。現在蒙古族の中心的種族はこれである。

タタラ蒙古——内蒙古に居住する之も成吉思汗の後裔で、ハルハ族と共に蒙古族の中心的種族をなしてゐる。

オロツト蒙古——寧夏阿拉善、青海に居住してゐる。

タタール蒙古——外蒙古の科布多地方に居住してゐる碧眼の蒙古族で、ソ聯の壓制に堪へ兼ねてその一部はすでに國外に逃れ去つてしまつた。

曾ては東亞の王者

蒙古といふ名稱の起源は『蒙古民族が最初に居住した地域を忙古と稱するので、之を轉じて蒙骨斯又は蒙古と稱へるやうになつた』といふ說が一番眞に近いらしい。蒙古民族は初め苗、匈奴、突厥、韃靼などと呼ばれ、北方アジアの草原で游牧狩獵の生活をしてゐた一弱小民族にしか過ぎなかつた。それが南宋の高宗時代——西曆千百二十七年から六十二年迄——に、族長哈不勒が出て稍々勢力を得、始めて蒙古輔國公と號し、その孫也速該は金の附庸として黑龍江畔を游牧しつゝ益々勢力を擴大した。蒙古といふ名稱が洽く知られるやうになつたのはこの也速該の領土擴張時代からである。

也速該の孫の鐵木眞は更に勇猛果敢だつた。先づ塔々兒部を破つて金の招討使となり、金の内爭に際しては愛王を援けて章宗軍を破り、蔑里吉特部、泰赤烏部、乃蠻部を陷れ、克烈特部

を滅し、一擧に朝陽以北の地を領し、西暦千二百六年、敖嫩河畔に忽里勒台（會盟）を催して大汗（皇帝）の位に卽き、成吉思汗と號して世界統一の誓をたてた。時に齡五十三歳。之を元の太祖と呼んでゐる。

成吉思汗の卽位後、蒙古の勢力は益々昂まり、滿、漢を初めとし遠く南方ロシア中央アジアから支那の北半をも併呑し、印度ベルシヤにまで出兵した。斯くて歐亞に跨る元大帝國を成したが、西紀千二百二十七年金を滅すべく甘肅省六磐山に至り陣中で病歿した。成吉思汗の歿後遺言に依つて第三子窩濶臺が元朝第二代の大汗に卽位し太宗と號した。その甥拔都は五十萬の大軍を率ひてヨーロツパ征服の途に就き、キルギス高原を過ぎ、モスコーを屠り、キエフを燒き、ハンガリー、ポーランド、ドイツを侵してドナウの流れに馬蹄を洗ひ、全軍をブタペストに揃へて大ローマ帝國に迫らんとした。まさに旭日昇天の勢であり勇壯な大繪卷の展開であつた。ために全歐洲は震慄したが、折柄太宗の訃に接し、蒙古に歸還した。若し此處に太宗の訃がなかつたならば如何なる結果を齎してゐたか？　確かに世界の歴史を彩る大きな出來ごとを生んでゐたにちがひない。

忽必烈は第三代の大汗憲宗の弟である。彼も亦勇猛の將で、四川、雲南を平定し、成吉思汗

以來の懸案であつた南宋をも攻滅して支那本部を收め、吐蕃、交趾（佛領印度支那）を陷れその弟の旭烈兀は更に西してエヂプトを攻め、シリアを襲ひ、アラビヤを陷れ、小アジアの一部を平定してタブリスに都し、アム河以西の地を併有して伊兒汗國を建設した。

斯くして蒙古は遠征に次ぐに遠征を以てし歐亞の天地を慘たる流血と兵火を以て覆ひ、殺戮剽掠飽くことを知らぬかに見へた。吾々が歴史で習ひ知つてゐる元軍が九州に寇したのは實にこの頃で西紀千二百八十一年である。然し東方に志した蒙古は神國日本に慘敗を喫するに及び、遂に遠征の念を絶つに至つた。

とはいへ、成吉思汗がオノン河畔に世界統一の誓をたてゝ征戰に志してから、その孫忽必烈が南宋を攻滅して支那本部に君臨するまでの星霜は僅かに七十年、しかもその全版圖はアジア大陸を横斷して東は日本海に起り西はヨーロツパの東北部に達し、支那本部を中心に內外蒙古遼東、青海、西藏、中央アジア、東南アジアの地域を直轄する空前絶後の大帝國を建設し、北方アジア民族のために世界史上不滅の光彩を放つたのであるから物凄い民族と云はなければならない。

元帝國の崩壞以後

斯くも無比の武勇を揮つたところの元大帝國が滅亡したのは、征戰にのみ巧みで、之に伴ふ文化と產業の發展がなかつたからだ。それが爲め統治した漢民族の文化に同化して軟弱となり、一方漢民族の間には猛烈な民族運動が勃興し、內外から衰滅の兆をきざすに至つたのだ。

折から南方支那に漢民族の明朝が興り、蒙古民族は支那本部を追はれて長城以北の故地に還るべく餘儀なくされた。忽必烈卽位後僅かに九帝、百七年にして元朝の正統は亡び、元裔三代にして遂ひに元朝崩壞の悲運に會し、玆に蒙古民族の輝かしい朝廷は失はれてしまつたのである。然し乍ら、蒙古は後年清朝に歸順するまで嚴として長城以北に頑張り、漢人の侵入を許さず、頻りに關外から明朝を脅かしてゐたので、蒙古の存在は依然として漢民族の脅威の的であつた。

滿洲に興つた清朝が、支那本部の制覇を目指し、明を攻め出したのは西曆一千六百十九年頃からである。當時の蒙古は元朝崩壞後の群雄割據時代で屢々清と爭ふことゝなつたが、內蒙古十六部は遂に清に協力し、攻明戰に參加して長城を破り、北京を包圍して漢人の膽を奪つた。

斯くて清朝は康熙帝（聖祖）の千六百六十二年に全く明を攻め滅ぼし、支那本部統一の偉業を完成したが、この攻明戰に蒙古の武力があづかつて力のあつたことは云ふまでもない。

然るに清朝の支那統一成つて後、外蒙古は準葛爾王葛爾丹の侵略を受けた。不意のこと故大いに狼狽し王公會議を開き、露支何れに援助を求むべきかに就て協議した。その結果高僧哲布尊丹巴の主張である『ロシアは佛敎を信じないし言語も風俗も亦同じではない。だが支那は佛敎を奉じて人情に篤い。支那に賴ることが蒙古萬代の福である』といふ說に從つて清の康熙帝に援助を乞ふたのであつた。其處で康熙帝は外蒙古に大軍を送つて葛爾丹を討つた。それに依つて內外蒙古は康熙帝をあがめ、玆に內外蒙古をあげて清朝に歸順するに至つた。

清朝は支那本部の統治上勇猛果敢な蒙古民族を封鎖することを考へ、蒙古に旗制を設けて王公の數を增し、小王公に分封し、喇嘛敎を奬勵して迷信を植ゑ付けると同時に武勇の精神を麻痺させ、漢化を制限して文化の光に浴させず固有の游牧生活に安住させ、清朝皇族と蒙古王公との間に結婚政策を用ひ清朝と蒙古とを血族的に不可分の關係に置き、年班制を設けて王公を北京に招致し支那式遊惰の風に馴致して金錢を浪費させその雄志を去勢した。就中蒙古を旗に分割して蒙古民族の共同動作を不可能にしたこと及び喇嘛敎によつて蒙古人の勇武進取の氣象

を麻痺させたことは蒙古民族史上の重大異變であつて、蒙古衰滅の原因は實に斯る清朝の對蒙政策に存すると云つて差し支へない。然るに、清朝も亦元朝の前轍を踏み、漢人文化に毒され官吏は多く腐敗墮落し、清朝政治の實權は漢人の手に移つてしまつた。これに依つて清朝の對蒙政策は益々蒙古衰滅の方向に押し進められたのだ。

もつと實質的な蒙古の崩壊は、漢人の蒙地開拓で、康熙年間早くも綏遠、熱河の地方に治つた漢人流民の蒙地開墾は、乾隆帝時代に至つて愈々蒙古人の生活を脅威する勢力となつた。清朝の勢威が支那本部に於て減殺するに伴ひ、漢人は競つて蒙地に流入し、ために清朝は屢々蒙地の典賣を禁じ、地方官の責罰を諭告したが、大勢には抗しがたく、かてて加へて北京に於て遊惰に耽り財的苦境に陥つた蒙古王公は、土地典賣による目前の小利に眩惑され、密かに漢人流民を招致さへしたので、内蒙古南部地方は蒙古人の影を止めぬやうにさへなつてしまつたのだつた。

この頃東方侵略に志したロシアは屢々滿蒙の北境を侵すに至つた。其處で清朝は千九百七年東三省蒙務局を設け、一大籌蒙事業を計畫し大量の漢人を滿蒙に送つてロシアの北境侵略に備へやうとしたが、これは實行期に入らんとする千九百十一年支那革命の勃發に依り、清朝崩壊

と共に頓挫してしまつた。

清朝の崩壊は蒙古と支那との關係を俄然一變させた。即ち清朝末期に至り完全に漢人政權化した支那の政治に不滿を有してゐた蒙古人は、清朝の崩壊と共に敢然民族主義の烽火をあげ、蒙古は清朝に歸順してその外藩となつたが、かつて支那の版圖に入つたものではない。況や清朝崩壊の後に於て多年の仇敵である漢人の支配下に屈する理由はない、となし、内外蒙古は直ちに獨立國家創建を叫んで起つたのである。爾後十數年間の蒙支の關係は、蒙漢民族の抗爭史であるが、清朝崩壊二十餘年にして蒙古は露滿支三ケ國の支配に分割され、三百萬の蒙古民族は混沌とした政治的經濟的社會的狀勢下に彷徨しつゝ今日に至つたのである。

王公と旗、部、盟の制度

蒙古を識らうとするに當り、先づ不解視されるものは、王公や旗、部、盟等の制度であらう。北部アジアの草原で游牧してゐた蒙古民族は、他の游牧民族と等しく、他種族の襲擊と野獸の被害を妨ぐために常に强大な武力が必要であつた。斯る不斷の武力の必要は必然的に同民族の强固なる結束を齎し、武力に長じた游牧集團を生じたのだ。そして、一個の集團は族長とそ

の部下から成り、成吉思汗四代の祖であつた族長哈不勒が初めて『蒙古輔國公』と號して以來族長は何れも王公と號し、鐵木眞に至つて四隣を征服するや、大汗（皇帝）の位に即いて成吉思汗と號したこと前述の如くである。故に蒙古の王公は、一個の游牧集團を率ゐる民族の長の尊稱であつたと觀られる。

ところでその游牧集團は轉々と移動するものであるから、その目標は青々と繁茂する牧草と水とであつて、必ずしも土地の所有を企てたものではない。故に游牧集團は土地概念に基いて成立したものではなく、自由なる移動と自己集團の保護の必要から生じたところの王公と部下との身分關係に基く集團だつたのである。

蒙古ではその集團をアイマーク（部）と云ふ。アイマークが發展膨脹して國家的規模にまで達すると始めてオロス（國）となつたのである。だからアイマークを蒙古の種族單位と見ることが出來、蒙古の歴史では元帝國と現在の外蒙共和國がオロスである。

清朝は蒙古の勢力封鎖のために游牧集團の大なるものは分割し、小なるものはそのまゝにして一定の地域に固着させた。即ち旗（ホショ）を設けたのである。ホショ（和碩）とは蒙古語で、犁の金具、尖端、或は丘陵の支脈の意である。蒙古の旗とは即ち曠漠たる草原を武力に依

つて自由に移動してゐた戰鬪的游牧民族が、清朝に依つて封じ込められた一定の地區に外ならない。

旗には札薩克旗、總管旗、喇嘛旗の三種があり、札薩克旗は游牧旗とも稱し王公治下の旗を謂ひ、總管旗は索倫、察哈爾、スルクの諸部に王公を置かず、之を滿洲旗に等しい軍團組織として中央より任命派遣する總管に管轄させたもので、軍管旗とも稱する。喇嘛旗とは錫埒特（小庫倫即ち現在の綏東）の一旗を喇嘛政權として旗下の喇嘛中から旗長を選任し、之を札薩克喇嘛と稱して旗務を總轄させたものである。この中印璽世襲を繼續するのは游牧旗の札薩克のみで他は世襲ではない。旗公署は一般に札薩克衙門と呼んでゐる。

清朝は又相隣接する一定の地域内の旗を以てチンゴルガン（盟）を組織させた。これは指定された地域内の王公が三年に一回宛一定の場所に集合して過去の報告をなし、將來の方針を協議した制度で、盟の集會をチンゴルガン・ノ・チゴルガン（盟會）と稱した。盟の名稱は盟會を開く場所の名に因んで附したもので、例へば錫林郭勒盟（現察哈爾省北半部）の五部十旗の王公が錫林郭勒河畔に於て盟會を開いたのを錫林郭盟勒と稱した如くである。

原始的な民情

游牧と喇嘛教の恩惠を祈ることを理想とする蒙古人は、近代文明人の想像に絶する原始的な民情を持つてゐる。先づ蒙古人の宗教を見るに、蒙古人の一擧手一投足がその奉ずる所の宗教である喇嘛教によつて律せられ、勞働することは喇嘛に供養するためであるとし、時には愛妻の貞操も自己の生命も喇嘛に捧げていささかも悔いない程の熱狂的信仰振りなのである。

元來喇嘛教は佛教の一派である密教に屬し、『卽身成佛無上來』の教理に從つて僧を『自己の師』又は『上なる者』卽ち喇嘛と尊稱するのであるが、之が蒙古に廣く流布されたのは西紀千六百年頃以降と見られ、清朝時代に政策的に之れが信仰を奬勵したので、單調な曠野の生活を營む蒙古人は忽然として狂信するに至つたのである。喇嘛教の經典は、地理、歷史、數學、物理、化學、天文、易學、教育、倫理、醫學を初めとし、房事に關する事項をさへ含み、喇嘛は僧侶であると共に、教育・祈禱・卜筮等一切の行事を管掌する學者である。從つて菩薩の轉生と稱せられる喇嘛の高僧活佛は、王公の上位を占める主權者である。

近時蒙古人中若干の智識階級は、喇嘛教の弊害を自覺してその改革を叫ぶ者も現れるに至つ

たが、まだまだ一般人の信仰は篤く、蒙古人に接するに喇嘛教を無視する譯にはいかぬと云つた狀態である。外蒙共和國で千九百三十年の蒙古國民革命黨大會で、十八歲以下の青年を僧とすることを禁じたことなども、この宗教が今後幾分改革せらるゝであらうことの前兆とも見られぬことはない。

蒙古の大喇嘛廟では、毎年陰曆六月十三、四、五の三日間、盛大な法會が催されるが、この喇嘛廟の法會こそは、一望千里の草原で家畜を相手にして單調なその日その日を送る蒙古人にとつては、唯一の大衆的慰安日であつて、滿洲に於ける彼の娘々祭と共に、滿洲の曠野を彩る古典的行事の雙璧である。

法會は多數の喇嘛が佛前で念經する外に、廟前に於て所謂跳舞（跳鬼）なる踊りが演ぜられる。跳舞とは西藏語のチヤム又はガルチヤム、蒙古語のチヤムの支那譯で、日本語の舞踏と同意である。この跳舞の起りは——昔印度の寺院建立に使役された牛が西藏の一王に轉生しランタルマと稱したが、ランタルマ王は極端に喇嘛教を憎惡し、喇嘛を殺害し寺廟を破壞した。そこで信心深いフアーシヤン・ジヤルボと云ふ者が現れ、一夜ランタルマに鬼面獸面を裝へる踊りを觀せながら遂に王を殺害した。ランタルマ王の靈魂は水の精に變じて山頂に住み、山下の

寺廟に水を流して寺廟を履さうとしたので、廟衆はフアーシヤン・ジヤルボの古智に倣つて鬼面獸面を裝ひ跳舞した。その跳舞に依つて水災を免れたので、爾來跳舞を行へば水災を免れると信じられ、延いては火災や飢饉等の災厄まで免れるやうと西藏や蒙古の喇嘛廟では、廟法會その他にこれを行ふやうになつたのである。鬼面獸面は護法神で、その踊りは三百人で踊るもの、七十五人で踊るもの、十人或ひは一人で念經し乍ら踊るものがある。

蒙古人が寺廟を大切にすることは勿論、土を掘ることを忌み、魚類を喰はず、事物の改革を喜ばぬこと等には多く喇嘛教の教義と游牧型態維持の欲求とが交錯して影響してゐるものと見られる。喇嘛教流布前の蒙古人の宗教はシヤマン教で、その原始宗教がウラル・アルタイ系民族共通の太陽崇拜であつたことは前にも述べた通りである。

蒙古人の信仰の對照としては宗教の外にオボがある。オボとは石を積んだ處といふ意味で、山嶺や境界その他由緒ある位置に設けられてあるもので、その形態にはいろいろある。例へば單に土を盛つて頂きに石塊を置いたもの、壯麗な石造のもの、堂宇を建てたもの、鳥型などを置いたもの等々で、このオボには宴中管主なる守護神が棲んでゐるとして崇拜し、此處を祭典場として盛大な式典を擧げる。祭典の際豚の首を天に投げあげる奇習があるのも一寸グロだ。

蒙古人は王公を尊敬しその命には絶對に服從する。清朝の年班の折り北京に在る王公の浪費にさへ營々として物を貢いでゐた。長上を尊敬し之に服從する觀念に厚いことは洵に嘆賞すべきものがある。その愛誦する歌詞などにも成吉思汗を始め彼等の祖先の英雄を追慕し讃美するものが多く、祖先崇拜の觀念亦熾烈である。

蒙古人は原始的な民情を有する丈けに極端に保守的である。だから道路や鐵道の開通を喜ばず、進んだ文化の侵入を阻止し、露天溫泉に屋根を設けることさへ忌むと云つた具合だ。最も神聖な地域としてゐる察哈爾省のダブス、ール（鹽湖）で禁止事項に背いた漢人が、聖域を穢すとの理由で殺されたことさへある。が、これは滿洲に屬してゐる蒙古の急速な文化の發達に影響されて、漸次改められてゆくのではないかと思はれる。

蒙古人が家畜を愛すること、乘馬に巧みなこと等々、蒙古旅行者は原始的な民情及びそれを物語る幾多の例話を見聞することであるが、愚直蒙昧な蒙古人の民情は强く日本人の胸底に相觸れるものがあり、漢人に接した場合と相異る親愛の情を覺える。これは同一系統の人種、同一系統の民族の血の叫びかもしれない。

蒙古人は一般的には性格頗る朗かで、興到れば放歌高唱し、腹をゆすつて呵々大笑する民族

である。斯る明朗な性格の持主である彼等が、一面外部に對して强烈な猜疑心を抱くやうになつたのは、多年に亘る漢民族の壓迫と、千九百十一年以降に於て支那との間に屢々流血の慘事を演じ、外蒙古が露支の間に轉々としたことである。とはいへ蒙古人は一度相手を信ずれば最後まで信じ通すので、先づ信ぜしめ、然る後一途な信頼を裏切らぬやうに心掛けなければならない。日本人は現在多くの蒙古人から强い憧憬と信頼の念を以て觀られてゐるのであるから、この點を注意して接してゆかなければならぬ。

蒙古人の家屋、風俗、習慣等は地方に依つて異る。就中家屋は生活型態の變化、即ち游牧型態の崩壞に從つて變化してゐるので最も現象的に蒙古社會の崩壞狀態を現してゐる。

蒙古人の家屋は由來『蒙古包』である。之は轉々と移動するために考案されたもので、傘の如き木骨を屋根とし、木製の圓形の柵を矢來のやうに組んで壁とし、之に毛皮又は毡子（フェルト）を覆ふたもので、全量は一臺の車に充分に積載することが出來、取崩しから組立てまでに僅か三十分を要するに過ぎない頗る簡便な家屋である。游牧社會の家屋は悉く包で、この種の包をモングルゲル（移動包）と呼んでゐる。屋根に紅色の飾りを施したものは王公の、綠色の飾りを附したものは王公の妻女の包である。

漢人の壓迫で游牧が不可能となり、半牧半農の生活に入ると必然的に一定の位置に居住することになるので、モングルゲルと同型ではあるが屋根及周圍を草葺とした家屋を建てる。之をウブスンゲル（半固定式包）と稱し、更に農業が主產業となると、形は包と同じであるが屋根を草で葺き、周圍は圓型又は方型に壁を塗り窓を明け、內部には炕（オンドルのやうなもの）を設ける。之をブンプクゲル又はトグルヂル（固定式包）と稱し、支那式家屋に移らうとする形式である。若し熱河省を經由して錫林郭勒盟に到るならば、それらの家屋によつて、漢民族の蒙地侵略の跡と蒙古游牧社會崩壞の過程を見ることが出來る。

蒙古人の結婚は、純蒙地帶では男子十六歲以上女子十五歲以上を婚期とし、媒酌人が婚約を取り結び、結納には家畜を贈る。そして吉日を選んで式を擧げるが、この時新郎は新婦の家に入らんとするのを三度び屋外に押し出すやうな態度を示し、然る後屋內に導き入れる。酒を酌んで祝福することは何處も同じである。

出產する時は家人と別に包を作つて妊婦を之に入れ、佛前に燈明を點じ、妊婦は包內の砂上に蹲踞して佛を念じつゝ助產婦に腹部を抱かせ、分娩すると臍の緒を馬尾の毛で切り、汚物を始末した後に產婦は始めて橫臥する。產兒は布に包んで籠に入れ、砂を溫めて袋に入れたもの

を胸腹部に乘せるので、虚弱な產兒はこの時に死亡してしまひ、强健なもののみが生存するのである。

蒙古人の葬儀は多くは屍體遺棄であつて鳥獸の飼食にする。若し數日後に尙屍體が殘つてゐると『あの人は犬も食はない』と云つて輕蔑し、再び喇嘛に讀經させて棄てる。この他屍體を小石で覆ふて馬に踏ませたり、火葬に附して灰で佛像を作つたり、屍體を切り刻んで土饅頭を作つて風化させたりする等の方法もあるが、大體屍體遺棄が目的であり、王公の外は絕對に墓を設けない。

行事は前記喇嘛廟の大法會、オボ祭りの他、除夜祭り、元旦その他喇嘛を招いて安泰を祈る等のものがある。

蒙古人は衞生觀念に乏しく、梅毒、トラホーム、皮膚病等の患者が多いことは有名である。

教育は從來役人となる子弟のみが僅かに勉學し、喇嘛は蒙古文を用ひず專ら西藏文を用ひるので、教育施設として見るべきものは何物もなかつた。しかし清朝末期に至つては多くの蒙古青年が支那及び諸外國（主として日本とロシア）に留學したり、又蒙古に於ても漢人が私塾を設けて一部の子弟を教育したので、青年の間には多くの知識層を作つた。だがその大部分は支

那語によつて支那式な教育を受けたのであるから蒙古人にして蒙古文を書き得るものは極めて尠い。そればかりか漢人地帶の蒙古人に至つては蒙古語を知らぬ者さへ多い有樣である。

滿洲帝國政府では、蒙古人に對する教育施設の完備を期し、國內各蒙旗に小學校を設けしめ普通教育の徹底を圖り、興安軍官學校、興安學院等の中等學校を開き、更に喇嘛僧及び一般人の優秀者を日本に多數留學せしめる外、各種の實業教育の實施を計畫し、總てそれ等の施設は蒙政部によつて着々進捗しつゝある。

外蒙共和國はソヴエート式教育を基幹として小、中學校及士官學校等を設けてゐるが、一般の文化・智識の程度に於ては、外蒙古人は內蒙古人に劣るので、いまだ滿洲帝國內蒙古の教育施設には及ばぬであらうと見られてゐる。

交通・通信・運輸

鐵道は滿洲帝國內の蒙古地帶に於ては、濱洲線が呼倫貝爾を橫斷し、齊北鐵道、平齊鐵道が連接して南北に走り、平齊線から分岐する大鄭鐵道が南部に彎曲し、新大鐵道、洮索鐵道は將に中央部を東西に貫かんとする外、熱河蒙古にも新鐵道が建設されつゝあり、近代文化の大勳

脈が轟々と蒙古高原に進みつゝある。之に反して支那支配下の西部内蒙古に於ては、僅かに察哈爾省南端から綏遠省の中央部に到る京包鐵道一線を有するのみであり、外蒙古ではシベリア鐵道チタ驛より首都庫倫に到る鐵道を建設中と傳へられるのみで未だ一線の鐵道も持つてゐないのである。

道路は、滿洲帝國内蒙古に於ては、濱洲線海拉爾より北方の三河地方に至るものと、南方ハロンアルシヤンを經て索倫に達するもの、索倫より察哈爾省の北端東烏珠穆泌旗に入るもの、大鄭線の通遼から開魯を經て林西に達するもの、熱河省朝陽より北上して赤峰を經て林西及び察哈爾省南部の多倫に至るもの、朝陽より承德を經て多倫に至るもの、林西より察哈爾省西烏珠穆泌旗及び經棚を經て多倫に至るもの等を主要道路としてゐる。西部内蒙古に於ては張家口より察哈爾省西南部を經て外蒙古庫倫に至る所謂張庫街道と、多倫、貝子廟、東西烏珠穆泌旗大布蘇諾爾に到るもの、綏遠省歸化城から南下して山西省に達するもの、百靈廟に至るもの、包頭より新疆省、甘肅省、寧夏等に入るもの等がある。

外蒙古は東方及南方に對しては嚴重な鎖國政策を執つてゐるので、多くの道路は全く杜絶したが、庫倫・張家口間の張庫街道のみ外蒙古と北支那間の幹線として活用してゐるのである。

そして外蒙古の道路は庫倫を中心として東部の桑貝子に至るもの、北方國境の賣買城に至るもの、更に遠く西部の科布多、烏里雅蘇台に至るもの、其處より新疆省、綏遠省に入るもの等を主要道路とし、シベリア鐵道沿線に向つては多くの道路が拓かれつゝあるものゝ如くである。

然して西部蒙古の複雜地帶は概ね交通困難であるが、東部の平坦なる沙草地帶の高原は概ね自由に自動車を走らせ得る。就中、察哈爾省の地方では五十哩、六十哩の快速力で縱横に馳驅することを得る。從つてこの地方の道路は必ずしも一定したものではなく、行人は大體の方角を見定めて進むのだから極めて大陸的だ。

通信は往時は各地共馬によつて傳へてゐたのであるが、現在滿洲帝國内に於ては各地共殆んど郵便、電信の便がある。西部内蒙古も包京鐵道沿線に限つて、郵便、電信があるが、その他の地方は舊來の如く驛站の馬によるもので、通信は殆んど不可能といふべき程に不便である。しかし、最近は民國政府が各地に無電を設置したので、電信の便は相當に拓けたと見られる。外蒙古に於ても、地方の通信は多く驛站により主要地間には無電があり、張家口・庫倫間には有線電信がある。今後蒙古の通信施設は、交通機關の發達と共に進歩するものと見られてゐる。

又、曠漠たる蒙古平原に於ては、自動車、航空運輸は最も好適であつて、ソヴエート聯邦は外蒙古の主要地と露領内に航空路を有し、自動車道路は内外蒙古に渉つて拓けつゝある。ドイツ系資本による歐亞航空公司は、千九百三十四年十月から、北平、包頭、寧夏、蘭洲間に航空路を開設してゐるが、現狀に於ては蒙古の航空營業は到底採算が取れるものではなからう。

畜　産

蒙古の家畜は、緬羊、山羊、馬、牛、駱駝を主とし、就中緬羊と馬はその代表的なものである。蒙古在來の緬羊は、長尾種中脂肪種に屬するもので、蒙古人は之を肉用、搾乳皮毛用として直接生活の資料とし、羊毛は副産物として重要視してゐなかつた。從つて羊毛の改良は行はれず、その品質は概して粗惡である。

馬は蒙古人唯一の交通機關であるから各戸に飼育する外、游牧地帶に於ては多數の放牧馬を有する。優良馬の産地として知られる錫林郭勒盟北部の烏珠穆沁地方では、一群數百頭に達する放牧馬群を發見する。蒙古馬は一般に體軀矮小、性温和であるが、頑强にして持久力を有し、粗食に堪え、寒氣に抵抗力が强く、馬格も支那馬よりは良好である。烏珠穆沁産の優良馬

は例の上海競馬に多く出場して駿足を謳はれてゐる程である。

牛は搾乳用及び食用に供する外、物資運搬にも使役せられ、頑健にして粗食と寒氣に堪へ、疾病に對する抵抗力も强い。體軀は矮小で肉量は少く、泌乳力にも乏しいので、市場價値はない。

駱駝は二瘤種に屬し、主として物資運搬に使役する。興安省に約七百頭、錫林郭勒盟に約二萬頭を有するが、その毛質は甚だ不良で、これも市場價値は尠い。

又蒙古の家畜中には、獰猛を以て知られる蒙古犬が加へられる。蒙古犬の獰猛なことは、蒙古人の挨拶に『犬をつないで下さい』といふのがあることに依つても想像される。蒙古人は之を多數飼育して家畜の番犬とし、狼の襲擊に備へるのであるが、人肉の味を知つてゐる蒙古犬は、蒙古旅行者にとつては誠に恐るべき存在といはねばならない。狩獵用としては細狗と稱する長身痩軀、俊敏快速の犬がゐるが、純粹種は極めて稀であるといふ。

家畜や狩獵によつて得らるゝ毛皮革は、衣類とするものの外は海外に輸出される。

林産と鑛産

蒙地に於ける農業は、その大部分を漢人によつて占められてゐるので、蒙地の開墾面積が廣大なのに比して蒙古人の農産は殆んど云ふに足らず、蒙古人自身が消費する穀物の多くを漢人から仰いでゐる狀態である。しかも蒙古人は喇嘛教の『鍬を以て土中の蟲を切るは冥福を得る途でない』といふのを奉じてゐるのと、農耕は必然的に牧野を狹め游牧が出來なくなると考へてゐるので、土地を掘ることを迷信的に嫌忌するのである。然し蒙古人が農耕を嫌忌し游牧生活に安住することは、蒙古の産業發展を阻害するばかりでなく、蒙古人が自然に分散居住するので、一切の教育も産業指導も所詮行ひ難いので、滿洲帝國では、國内蒙古人を定住せしめて有畜農業に導き、可及的の範圍に於て大農組織の農業を移殖しやうと計畫してゐる。

森林は西部蒙古の薩彦、阿爾泰兩山脈地方が最も豊富で、東部蒙古に於ては大興安嶺森林を殆んど唯一のものとする。大興安嶺森林は、南は洮兒河、索岳爾濟山の一線より、北は濱濟洲線を越えて黑龍江岸に達し、東は嫩江、西はアルグン河を以て境とする大興安嶺本支脈を覆ふもので、その推定蓄積量は六十億石とされてゐる。樹種はダフリカカラマツ、シベリアアカマツ

等の落葉針葉樹、白樺、楢、柳楊、楡等の濶葉樹で、從來は主として東支鐵道用に消費されたのみで他地方へは運賃關係で殆んど輸送されなかつた。が今後は相當の活況を呈すであらう。

蒙古に於ける鑛産資源の豊富なことは、多くの旅行者の記錄によつて夙に豫想せられてゐたが、交通の不便と、土を掘ることを厭忌する蒙古人の迷信にその調査を妨げられ、その實相は未だ明瞭にされてゐない。現在採掘されてゐるものは外蒙古の金鑛、石炭、西部内蒙古の鐵鑛石炭、鹽、曹達、東部内蒙古の石炭、砂金鑛、鹽、曹達、岩石等で、就中興安北省濱洲線沿線の石炭及びその北方の砂金、西部内蒙古京包鐵道沿線の石炭及鐵鑛、察哈爾省北部タブスノールの青鹽等が巷間に知られてゐるが、その採掘の規模は概ね幼稚であつて、目下試驗時代にあるといふべく、莫大な埋藏豫想に對して實際の産出量は極めて僅少である。

蒙古の鑛物資源として埋藏確實と見られるものは、石炭、鐵鑛、金、銀、銅、鉛、アンチモニイ、石油、石棉、硼砂、石墨、寶石、磁土、曹達、鹽の多種類に及び、綏遠、寧夏の鐵鑛、炭田、外蒙古の金鑛等は世界の注目を惹いてゐる。滿洲帝國建國後、興安省の鑛産資源に就ては漸次調査の歩が進められてゐるが、その豊富であることのみは略々判明したが、蒙古の鑛産は懸つて今後に興味がある譯である。

尙東蒙熱河並に興安西省地方の甘草、杏仁及び西部内蒙古と外蒙古に產する蒙古茸はすでに市場に著名であり、興安嶺に棲息する鹿の角は補精藥中の最高貴藥として珍重される。豊富な魚族を有するボイルノール及びその附近河川、ダリール等の漁業も亦見逃すことの出來ない價値がある。斯くの如く、無味乾燥な沙漠地帶として何等の價値なきところとされてゐた蒙古は實際には驚嘆すべき天然資源地帶であることが明かにされつゝあるのである。

左に蒙古鑛物の概要に就て略記して見よう。

外蒙古

石炭——ナライハ炭田（推定埋藏量三億ブード）技術的分析（水分八・三三、揮發物三五・五六、無灰コークス四八・七一、灰分七・三九、計一〇〇。）發熱量五・九四五乃至五・六六八カロリー。一九二八年の採掘量五五七・六一三ブード。原採掘地の價格七八・〇五六銀弗であつたが、一九三一年より千九百三十五年に亘る五ケ年計劃では總生產高を三〇〇・〇〇〇銀弗に達せしめる豫定である。第二位を占むるものは桑貝子（バイントウメンハン市）附近のもので、第三は西部の喀喇烏蘇湖南方、蒙古アルタイの西支脈に三個所あるものである。

金鑛——土謝圖汗部の巴圖爾貝勒旗にモンゴル金鑛、三音諾顏汗部の南部科達里河附近に埋

藏二萬五千プードといはれる金鑛、アルタイ山麓に未着手の豊富な砂金床等があり、コソゴル湖東方のウリ河及びその支流一帶の金床からはソヴエート聯防全產金額の約六割を產出するといはれてゐるが、作業秘密に附されてゐるので詳細は判らない。この外ソヴエート科學探險隊はバイダリカ河、エデルゴロ河の流域、ツコンギリゴロ河流域、ウリ河流域及恰克市東方等を探鑛した。

銀・鉛・亞鉛・石墨——銀の埋藏量は不明であるが、既に發見せるものは土謝圖汗部に二ケ所ある。鉛は多量に埋藏されてゐると見られ、土謝圖汗部に二ケ所、車臣汗部に大鑛脈一ケ所コソゴル湖地方に一ケ所の四ケ所あり、亞鉛は車臣汗部に一ケ所のみである。石墨はコソゴル湖畔に金山良佐質の石墨より成る山が二ケ所ある。

西部内蒙古（察哈爾綏遠寧夏）

石炭——察哈爾省南部の宣化、蔚縣、懷來、張北等の諸縣に、推定五〇・四〇〇萬噸を埋藏し、綏遠省には大青山一帶の山間溪谷に推定四一・七〇〇萬噸（一說には有煙炭三三七兆噸、褐炭及無煙炭八〇兆噸）を埋藏するといはれ、寧夏省にも四〇〇兆噸の埋藏量ありと稱されてゐるが勿論實相は詳でなく、年產額は一九三〇年に察哈爾省一一四・五〇〇噸、綏遠省九一、二

○○噸に過ぎず殆んど云ふに足らぬ狀態である。

鐵鑛——察哈爾省宣化縣、龍關縣の一帶に推定埋藏量九一・六四五・○○○噸を有すると稱せられ、綏遠省武川、鄂博、固陽、薩拉齊、清水、包頭に八五・○○○・○○○噸を埋藏してゐると云ひ、寧夏省では全く不明である。產出量は察拉爾省不詳なるも、資本金五○○萬元の龍煙鐵鑛公司が河北省に於て製錬しつゝあり、綏遠省より約一○○噸を產するのみである。尙察哈爾省東北部にも最近磁鐵鑛が發見された。

金鑛——察哈爾省南部、南泥溝が古くから金產地として知られる外、寧夏省の阿拉善、額濟納地方にも產するが埋藏量も產出額も詳でない。

銀鑛——寧夏省阿拉善、平羅にあるが詳細は不明である。

銅、鉛、石油——寧夏省阿拉善、平羅、寧武地方に存するといはれるが現在は產出して居らず埋藏量も不明である。

鹽——蒙古現鑛產の大宗はこの鹽で、察哈爾省に最も多く、大布蘇諾爾、ダブスアタイノール、タイハノール、キルノール、綏遠省鄂爾多斯地方にダバスン外數ケ所、寧夏省阿爾善東部チランタイノール、チヤラタイノール等の大鹽湖が散在し、最も著名な察哈爾省錫林郭勒盟の

ダブスノールは一ケ年の採鹽量大約二千五百萬斤と推定される。

曹達——察哈爾省南部、綏遠省南部、寧夏省東南部の一帶に產し頗る豊富である。察哈爾省年產額約二千萬斤、綏遠省年產額約千八百噸、寧夏省は不明であるが陝西省と合せて一萬八千七百五十噸位と見られてゐる。

その他硫黃、石棉、磁土、水晶、五色唱瑩、アンチモニー、石灰、硼砂、磁土等がある。

東部內蒙古（滿洲帝國興安省）

金鑛——興安嶺東部斜面地方に屬する餘慶溝金廠は、民國四年後の最盛時には年產四百三十貫に達したが、露支事變後休山してゐる。西部斜面地方に屬する奇乾金廠（興安北省顏爾克納左翼旗）吉拉林（同右翼旗）は、前者は民國十三年頃の最盛時に年產百七十貫、產したが民國十六年に休山、後者は民國十七年から大同元年までの累計六百八十五貫と推算さるゝ所の金を產してゐる。何れもロシア帝室金鑛として開發されたもので、この外索倫東北方の小河の兩岸安國營子附近の溪谷にも砂金を產する所がある。

石炭——甘河炭坑は墨爾根（嫩江）の西方約八十粁のところにあり、光緒三十二年に開鑛し民國元年に三十二萬元を投じて鐵道を開通したが經營よろしきを得ず民國五年休坑した。埋藏

量は五百萬噸と稱され、炭層一枚の厚さ約二メートルに及び、白亞紀に屬する白煤である。炭質は水分三・七九%、揮發分三八・八四%、固定炭素五六、〇二%、灰分一・三五%である。

大青山炭坑は民國七年の發見に係り、炭質良好である。夾炭層は石灰岩、砂岩、粘土の至層で〇・四乃至〇・五米の炭層四枚を有する。水分一・一%揮發分二五・九〇%固定炭素六一・三〇%、灰分一一・五〇%、硫黄〇・二〇%、發熱量七・〇二三カロリーである。

免渡河炭坑は北鐵西部線免渡河驛の南方十五粁の地點にあるが、目下休山してゐる。炭質は黑色で少しく金屬光澤を帶び、無煙炭に近く、脆弱で粉炭となり易い。水分三・三一%、揮發分九・〇四%、固定炭素六六・九一%、灰分二〇・七四%、硫黄〇・九五%、發熱量二・六六カロリーである。

札賚諾爾炭坑は、滿洲里の東方約二十七粁の地點にあり、北滿鐵道が經營したものである。埋藏量七千萬瓲と稱されるが、褐炭で熱量少く、粘結性なく、品質は不良である。採掘は露天掘及堅坑で、千九百三十一年の出炭量は二萬三百七十三瓲である。

察罕諾爾炭坑は濱洲線滿洲里驛の西南十三粁の地點にあり、千九百十二年に伊太利人が發見し、一ヶ年八千乃至九千瓲を出炭してゐる。埋藏量は一一・三〇〇・〇〇〇キロ噸と見られてゐる。

その他興安亞省魯北では土民が良質の無煙炭を自家用に採掘しつゝあり、興安東省索倫西北光頂山、老頭山に無煙炭を埋藏し、滿洲里西南百三十粁の橈木臺にも石炭の露頭を見るが、何れも埋藏量は不明である。

モリブデン鑛——如奇屯西方の弩敏河上流にあり、附近には金の埋藏量も多いがまだ採掘したことはない。

曹達——海拉爾南西二百粁のフジノールは年產二千五百瓲と稱せられ、品質優良で、炭酸ナトリユウム三八・九%を含有し、英國の結晶曹達や米國カリフオルニヤ產のものに比し遜色がない。この外少量ならば各地から產出する。

鹽——興安北省バインノール、ツアガンノールに產するが、察哈爾產のものには遠く及ばない。

その他、鐵、銀、銅、マンガン、アンチモニー、タングステン、ビスマス、水銀、石油、石棉、螢石、明礬、硫黄、硝石、炭酸鹽岩類、土材、花崗岩、石墨、寶石、鱗泉等を產するが、

鑛泉を除く一切の鑛物はその實相明かでない。蓋し埋藏量が豊富であることだけは想像されるので、これから蒙古を中心に鑛物採掘時代が出現するのもさして遠い將來ではなからうと思ふ。

商　業

蒙古人は元來家畜に依つて衣食住を充してゐたが、異種族との接觸が行はれ、これが頻繁の度を加へるに隨つて、それら對者との間に交易を生じた。同時に蒙人の自給自足經濟に破綻を來し、交換經濟に移つたのだ。それが蒙人の經濟觀念に深く根を張つてゐた爲め、今日に至つても蒙古人の交易は異種族との間にのみ行はれ、蒙古人同志の間に於ては殆んど行はれてゐないのは頗る注目すべき現象である。然してこの對外商業は入るを主とし、隨つて出づる受動的な商業であるといへる。その相手は支那人及びロシア人で、支那人は蒙古商業の過半を占めてゐた。所が最近は外蒙古からは完全に影を潜めんとし、東西内蒙古の商權をのみ掌握してゐる。愚昧にして數理觀念の無い蒙古人を、無恥と貪婪と狡智にたけた支那商人が、あらゆる欺瞞を弄し、評價を知らぬ蒙人の品物を買つて利し、商品を賣つて利し、所謂二重搾取的暴利を得た

ことは顯著な事實で、今後日人が誠意ある商法を以て取引を開始するやうになれば、支那商人の地位を奪ひ得ることは容易であらうと思ふ。

取引の方法は、支那行商人（出撥子）が蒙古人部落に直接出掛けるものと、蒙古人が地方集散市場の支那雜貨店に於て買ひ求めるもの、及び一定の地點に於て或る期間に蒙古人と支那商人が出會して交易する草地取引の三方法あり、概ね物々交換に依つて行はれる。蒙古人が出市する季節は多く春季と初冬の二季で、之は春季は越冬によつて缺乏した物資の補充であり、初冬は越冬に要する物資の準備をなすためである。春季は多くは毛皮革を、初冬には生畜を携へ、蜒々長蛇の如き牛車又は駱駝の隊商を組織して出市し、諸種の物資と交換して歸るのである。

又各地喇嘛廟では、大體陰曆の六月と九月に廟會が開かれ、遠近各地から蒙古人の善男善女が蝟集するので、出撥子は之を目指して集合し盛んな市がたつ。内蒙古に於ける廟市では興安北省新巴爾虎左翼旗甘珠爾廟、興安西省巴林右翼旗大板上、察哈爾省多倫、同東阿巴哈納爾貝子廟等が最も著名である。

蒙古人の需要商品は大體磚茶、砂糖、煙草、嗅煙草、酒、菓子、衣類、裝身具、佛具、馬具什器等で、ロシア人の調査に依る中流蒙古人の一家族の商品購入額は一ケ年約二百五十元で、

全物資消費格の六三%强に當るとのこと。之等蒙古人消費の商品中、外蒙古は現在ロシア製品がその大部分を占めてゐると見られ、內蒙古に於ては、北平、天津、上海方面の製品が壓倒的勢力を占め、良品廉價を世界に誇る日本製品は蒙古に於ては未だ極めて少量しか用ひられてゐない。此の點からも日本商品の蒙古に割り込む餘地は充分にあるのである。

蒙古人は現在尙貨幣を尊ばないから、商業取引には是非物々交換を主眼としなければならない。

外蒙共和國

外蒙古は由來喇嘛敎政權の地であつて、その最高權威者は庫倫の活佛哲布尊丹巴・呼圖克圖であるが、淸朝がその末期に當つてロシアの侵略に備へるために滿蒙の地に漢人の殖民開墾を奬勵し、著しく蒙古人の生活を脅威したばかりでなく、外蒙古に對しては政治的自主權の確立を企て、喇嘛敎政權に干涉したので、外蒙古の喇嘛王公は大いに憤り、支那武昌の革命に先立つ千九百十一年七月、ロシアの援助を受けて獨立を企てた。云ふまでもなくロシアは虎視耽々として多年蒙古の經略を策してゐたのであるから、好機到れりとばかり直ちに外蒙古の乞ひに

應じて兵を庫倫に送り、支那兵の行動を監視する一方、北京政府に對して外蒙駐屯支那兵の撤退方を勸告した。然るに當時既に支那は國內の情勢頗る緊迫せるものあり、北京政府はそのためロシア及び外蒙古と折衝する暇なく、同年十一月ロシアの勸告に從ひ撤兵したので、外蒙古は直ちに國號を『大蒙古』と號し、哲布尊丹巴を皇帝に推戴して獨立を宣したのだ。是れ外蒙古が康熙帝に服し淸朝に歸順してから、丁度二百年の後である。

然し、全滿蒙の權益取得が目的であつたロシアは、蒙支間に折衝を重ね、千九百十六年六月露支恰克條約の名によつて外蒙古の獨立宣言を取り消させ、支那に蒙古の宗主權を與へた。その後數年に亘り蒙支は紛爭を續けたが、その間甘い汁を吸つたのはロシアである。卽ちロシアは張家口以北の貿易、交通の特權を獲得することに成功したのだ。次いで千九百十七年ロシアに革命勃發して全露が一大混亂に陷るや、北京の段祺瑞政府は、外蒙古恢復を企て、徐樹錚の軍を急遽庫倫に派し、武力を以て外蒙古自治政府を壓迫して自治を取消させたので、外蒙は再び支那の勢力下に復歸するに至つた。

しかし庫倫に駐屯した支那兵は、蒙古人に對して暴虐を極めたので、外蒙古の王公初め喇嘛民衆は擧つて反支熱に燃え、千九百二十一年、白系の露將バンロン・ウンゲルが庫倫に遁入し

て三千の支那兵を虐殺するや、歡呼して之を迎へたので、一時外蒙古の兵馬の權はウンゲルに委ねられた。ところが、軍規紊亂せるウンゲル軍の横暴は、支那兵のそれにも勝つてゐたので民心は忽ちウンゲルから離れた。折柄革命後の新秩序を整へたソヴエートロシアはウンゲル軍討伐の名の下に庫倫に兵を送り、ウンゲル軍を擊滅すると共に、急速に政治工作を行ひ蒙古人民革命政府を樹立し、同年十月、十一ケ條に亘る革命的政綱の遂行に關する一切の援助を提議したのである。此處に於て蒙古青年革命黨一派は保守派である國民黨を壓迫し新政府に之を受理せしめた。一方新政府は國民黨員を反革命の名に依つて悉く虐殺し、外蒙古に一大恐怖時代を現出したが、更に千九百二十四年五月には、最高主權者哲布尊丹巴が暗殺され、外蒙古は完全に赤化分子の手に歸し、同年七月、遂ひに共和自治の宣言を發するに至り、玆に外蒙自治共和國の成立を見るに至つたのである。

それを楔機としてソ聯は外蒙に赤化の魔手を伸した。然し外蒙古人中保守的分子はこの工作を喜ばず、或る亡命者の如きは、より强力な第三國の援助に依つて外蒙古の民衆が武裝し得れば、共產政治は一ケ月以內に外蒙から驅逐されるであらう、とひそかに第三國家の援助を求むる如き口吻さへ洩してゐる程で、外蒙古の赤化はいまだ眞に成功したものではない。今後外蒙

古が眞に赤化してロシア極東政策の强固なる根據地となり得るか否かは、將來外蒙古を支配する政治の如何に懸る問題として殘されてゐる。若し外蒙古が東亞赤化の根據地となり得るならば、アジアの不幸は、漠北の曠野に散りつゝある保守的蒙古人の血しぶきの裡に胚胎してゐると云はなければならない。

更生の東部內蒙古

外蒙古民衆の慘狀に反して、民族主義に依つて更生しつゝあるのは、東部內蒙古卽ち滿洲帝國內の蒙古民族である。

これより先き東蒙の南部熱河に熱河廳が設けられて始めて漢人官吏が入蒙したのは雍正元年（西紀一七二三年）のことであるが、爾來熱河廳は屢々名稱を變更し、權益を擴大して、ひには蒙地の開墾事業を經營するに至り、地方蒙古人の反對を押し切つて漢人が蒙地を獲得する上に便宜を與へる有力な機關となつた。しかも清朝末期に至つて一切の政策が漢人本位に行はれるやうになつてからは、熱河蒙古の法的秩序は漢人のために全く蹂躪され、漢人暴民による蒙古人部落の破壞、蒙古王府の燒討ち、寺廟の荒廢、慘虐なる殺戮行爲等が演ぜられた。之がた

め熱河蒙古人は多數北方の蒙地に安住の地を求め大擧して哲里木盟洮南地方に移住した。然るに、その當時熱河蒙古の王公の中には、旗民の痛苦を顧みず、私利のために權力を以て土地を漢人に開放した者が多く、一般蒙古旗民のそれ等愚昧なる王公並に漢人に對する反感は、千八百九十一年の熱河暴動となつて爆發し、更に洮南地方に移住した熱河蒙古人が北上した漢人によつて再び安住の地を奪はれたのでこれ又自暴自棄的暴動を起し、之に前後して彰武地方のスルク蒙古人も奪起した。

他方、千八百九十四、五年の日清戰役に慘敗した支那は、日本に對抗する政策としてロシアと結んだので、滿洲に於ける日露の關係は俄然緊張するに至り、この形勢を看取した東蒙人は日本に賴つて支那の壓迫を脱せんとしたので、其處には熾烈な親日熱が勃興した。日露戰爭が起つた時、東蒙人が直ちに起つて日本のためにロシアに刄向つたのはそのためであつた。

千九百十一年の支那革命は蒙古に取つては獨立の絶好機であつた。革命の動亂によつて支那の蒙古に對する武力的壓迫が一時に退潮したのを見て取り、外蒙古は一擧に蒙古の獨立を獲得すべく起つたのである。この時東蒙に於ては先づ北部の呼倫貝爾巴爾虎蒙古が支那から離れて外蒙古と合併せんとして獨立宣言を發し、洮南附近では札薩克圖旗、圖什業圖旗を中心に蒙古

軍隊が編成せられ、全東蒙に反支、獨立の重大な暴動が勃發した。深刻な咒詛と反感に燃へた蒙古軍は、劣惡な戰鬪條件にも拘らず頑强に戰つたが、鎭壓に向つた張作霖の幕僚吳俊陞のために擊破され、指導者の多くは亡命し、暴動に加擔しない蒙古人や婦女子に至るまで虐殺された。

次で千九百十六年袁世凱の死によつて全支に再び混亂の兆を呈するや、强烈なる國家主義的民族自決の觀念を抱く東蒙人は、再び反支運動を起し、滿蒙境界に沿ふ廣汎なる地域に亘つて有力な蒙古獨立軍が編成された。その最も有力な指導者である巴布札布は東蒙より滿洲に通ずる要衝の地鄭家屯を占領し、翌十七年、北京に張勳一派の清朝復辟運動が起ると共に、蒙古の意氣は益々昂まり、之に刺戟されて呼倫貝爾も再び起つた。

巴布札布はやがて肅親王及張勳と結んで清朝復辟運動に呼應した。しかし事は志のごとくならず、蒙古近世の英雄であつた彼も、一敗地に塗れて林西附近で殺害され、之と共に十數年に亘つた東蒙の反支運動は鎭靜に歸し、千九百十八年の洮安附近蒙古人の自暴自棄的暴動を最後として全く終幕を告げたのである。兩來東蒙は形式的には支那中央政府蒙藏委員會（清朝時代の理藩院）の統轄下にあつたが、實際には東北政務委員會蒙務處の管理下に置かれ、張軍閥

の壓倒的支配と、益々攻勢となつた漢人の侵略によつて民族滅亡の一途を辿る悲痛な運命に置かれてゐたのである。

然るに、千九百三十一年九月十八日、所謂滿洲事變が勃發し、東三省の情勢は急激に變化した。玆に於て東蒙人は巴布札布の遺兒甘珠爾札布を擁して蒙古自治軍を編成し、滿洲邊境の治安維持に任じたが、翌年一月、舊東北政權錦州假政府が崩壞して全滿に新國家建設の要望を昂揚するや、東蒙よりは哲里木盟々長齊點特色木丕勒（現蒙政部大臣）呼倫貝爾副都統貴福（現滿洲國參議）を蒙民代表に推し、東北行政委員會に送つて滿洲建國の大業に參劃させたのである。蓋し滿洲國家の建設を最も熱望したものは反支運動の生々しい歷史と、軍閥政治の悲慘な現實を有つた蒙古の民衆であつたらう。

滿洲帝國の對蒙政策

斯く五族協和を基礎とし、王道樂土の實現を理想とする滿蒙三千萬民衆の總意に依つて滿洲帝國は成立した。しかし滿洲國の五族は各々文化、產業、經濟狀態を異にするばかりでなく、その民族性や傳統も一樣でない。殊に滿洲國の建國を最も熱望した蒙古民族は、他民族に比し

て文化、產業、經濟の狀態が著しく低位にあり、その保有する民族性、人情、風俗は三千萬民衆の大多數を占める漢民族と大いに異るものがあるので、之を一元的に律することは事實上蒙古民族を滅亡に導くことゝなり、新國家建設の恩惠は獨り蒙古民族には及ばぬことゝなる。其處で滿洲國政府は東蒙の歷史と現狀に鑑み、且つ熱烈なる蒙古民族の要望に基いて、國內の蒙旗中凡そ純蒙地帶と目せられる地域を興安省とし、蒙古民族のための特別自治行政區域とした。そして興安省に於ける行政は國務院に直屬する興安總署をして專ら掌らしめ、滿洲帝國の一般行政から分離したのである。從つて興安省に於ては敎育、產業、治安維持等の一切の施設が蒙古民族の復興を目的とする保護政策に基いて行はれ、建國以前の如き漢人の壓迫は嚴に之を排除し、蒙古人の宗敎及一切の傳統は、蒙古人自身の自覺に俟つて之を改善する方策をとつてゐる。

斯くて東蒙民族は他の蒙古民族に對し、民族更生の新たな道標を示し、全蒙古に果然民族主義の新波紋を描きはしたものの、滿洲建國の當初に劃定された如上の蒙古特別自治行政區、實際に於ては滿洲國內の全蒙古民族にその恩澤を及ぼすものではなかつた。寧ろより多くの蒙古人は興安省外の地域に散在し、漢人に圍繞された離れ島の如き蒙地に居住してゐるので、滿

洲政府では、千九百三十四年十二月一日、蒙旗行政制度を改革して蒙古の自治區を擴大し、所謂屬地、屬人兩樣の行政によつて國内の全蒙古民族を特別行政の傘下に容れ、興安總署の官制を改めて蒙政部とし、名實共に蒙古行政の中央機關とした。

動く西部内蒙古

外蒙古に次いで東部内蒙古は多年の宿望であつた支那の支配下を脱した。斯くて支那支配下に依然として取り殘されたのが西部内蒙古たる察哈爾省、綏遠省、寧夏の蒙古民族である。

然し西部内蒙古の蒙古民族も、他の蒙古民族と何等異るところなく、漢人への呪詛と憎惡の念を有し、支那政府の蒙古に對する不誠意に大きな不滿と不平を持つてゐる。千九百十一年の全蒙獨立運動失敗後の蒙古青年黨、内蒙國民黨等に依る一連の内蒙改革運動は、西部内蒙古に於ても熱烈に闘はれたのであるが、結果は東部内蒙古同樣に悉く失敗に歸した。千九百十一年以降に演じられた反支蒙古人の流血は此處にも展開したのである。

斯くて西部内蒙古人自身の政治的感情は夙に支那から離れてゐた。且つそれは外部からの刺戟に依つて一層發展し得る性質を有するものであつた。玆に西蒙民族の政治的感情を刺戟した

二つの事件がある。その一つは外蒙古の完全な支那勢力排除であり、他の一は東部内蒙古の滿洲帝國參加による自治區の獲得である。就中滿洲國の成立と蒙古民族の自治區獲得並に今なほ蒙古人の崇敬を失はぬ舊清朝皇帝の復興は、西蒙民族に重大なる衝動を與へ、俄然深刻なる動搖を惹起した。即ち中國の武力的壓迫の下に秘められてゐた西蒙民族の政治的自由獲得の欲求は、潜行的運動から表面的運動に發展し、西蒙各盟旗の王公代表は千九百三十三年七月十五日から二ケ月間に亘り綏遠省百靈廟に會し、蒙古民族の自決、内蒙自治政府の組織に關して熱烈な討論を闘はした。その結果、滿場一致を以て『蒙民自決』及び『内蒙自治政府樹立』を決議し、所謂『高度自治』の要求を呈文を以て南京政府に叩きつけたのである。南京政府はこの内蒙高度自治要求の主唱者にして王公會議の指導者であつた察哈爾省錫林郭勒盟西蘇尼特の札薩克德穆楚克棟魯普の背後に、日本の有力な支持があると曲解し、先づ行政院長汪洮銘の名を以て高度自治反對の佈告を發すると共に、内政部長黄紹雄、蒙藏委員會副委員長趙丕廉を百靈廟に急派させて王公會議に列席させ、綏遠省主席傅作儀は三百の衞兵に機關銃、迫擊砲を携行せしめて百靈廟に集合してゐた王公を包圍威嚇したばかりでなく、密かに莫大の黄白を散じて諸王公を懐柔しようとした。

然し、如何なる懐柔も威嚇も、熱烈に自治を要求する王公の前には全く効を奏せず、南京政府代表と王公代表の會議は同年十一月十一日から異常な緊張裡に開催され、波瀾に波瀾を重ねて漸く一つの蒙古自治案を決定した。けれどもその自治案は實際には當初蒙古王公及民衆が期待したところの何者の干渉をも許容せぬ内蒙の高度自治とは大きな隔りがある骨抜き案だつた爲めに、多くの王公及智識階級は痛く失望し、早くも内蒙自治の前途は悲觀さるゝに至つた。しかも南京政府は右の會議によつて、德王の背後には全く日本の支持が無いことを知るや、南京政府本來の對蒙政策たる可及的速かに蒙古人を絶滅しようとの立場に歸つて、さなきだに骨抜き案を更に改悪せんと試みたのであるが、それは蒙古側の猛烈な反對に依つて阻止され、千九百三十四年三月、改めて八項に亘る内蒙自治原則を中央政治會議が決定した。

斯くて蒙古地方自治政務委員會、所謂内蒙自治政府は、蒙古側當初の意圖とは遠く離れたものとはなつたけれども、兎に角成立を見るに至り、政府を百靈廟に設け、委員長以下の役員が任命され、主唱者德王が實際上の指導者として一切の政務を掌ることゝなつた。然るに漸くにして成立した内蒙自治政府は、高度自治でなくなつた不滿と、本來の不統一性を有する多數王公が逃避的態度に出で、加ふるに自治政府の經費支給を約した南京政府が、自治政府内部の不

統一を看取して經費支給の約を履行しなかつた結果、成立後日ならずして忽ち衰亡に瀕した。のみならず、政府官吏はその出身地關係に從つて、綏遠派と東蒙派に分裂して抗爭し、親支、親日滿等の政治的傾向を帶びるに至り、之に乘じて赤系分子の活躍が顯著となり、德王必死の努力にも拘らず、自治政府の實力は凋落の一路を辿りつゝ今日に及んだ。德王が當初各王公を説いて内蒙自治の運動を起すに際しては、外蒙古よりソヴエート聯邦の壓迫を排除し、内蒙古より支那の勢力を驅逐して蒙古を一國と成し、蒙古民族を一國民として復興させやうとの熱烈な國家主義的民族自決の大理想を披瀝したのであるが、それも夢に終るらしく見え、更に最近北支の動きと相俟つて西部内蒙が動きを見せてゐることは大方の知る如くである。

ソ聯の魔手と蒙古

世界征服の夢を描いた帝政時代のロシア人は、中央アジアのトルキスタン、キルギース、バシキール、カザン等の小國を併合して地中海への進出を企て、更に太平洋岸に於ける不凍港の要求から、シベリアより滿洲を侵略して、支那、朝鮮、日本にと迫つたのだつた。しかもロシアの世界統一の夢はツアー華やかなりし頃のみに行はれた譯ではない。帝政ロシア崩壞後のソ

ヴエート聯邦は、歐洲諸國に於ては階級闘爭による無產者革命を鼓吹し、アジアに於ては弱小民族の解放運動を支持し、階級闘爭を民族運動の兩面から資本主義を挾擊して以て世界革命の遂行を期したのであつた。然して、帝政ロシアの世界政策が暴力的占領計劃に基いて進められたのに反し、ソヴエート政府のそれは、思想的政治的であることによつて世界の脅怖は寧ろ增大したのであるが、實際には歐洲諸國に對するロシアの政策は失敗に終つたかの如くに見られる。然しアジアに對する政策は世界の視野を遠く離れたアジア大陸の中樞地帶に於て着々と効を奏してゐるかに見える。即ち外蒙古に次いで新疆をイギリスと支那から奪取し、此處に支配權を確立して、アジア政策の最大目標たる北支及支那本部赤化の根據地にしようとしつゝあるのだ。

西部內蒙古綏遠省に於ける赤系蒙古人の勢力は既に相當有力なものがあつたが、最近、最も保守的で最も赤化を恐れてゐる錫林郭勒盟の一部にも赤化分子が潛入したといはれるし、新疆省から甘肅省東部堺界にまでロシア航空路が開拓され、支那共產軍との連絡に成功したとも傳へられるに至つた。斯くてロシアは支那赤化の恐るべき摩手を支那の背部から差しのべたのであるが、東亞平和の鍵を握る日本帝國がこれを默過してゐていゝであらうか。（完）

欠

風雲を孕む外蒙古

須山滿洲男

はしがき

太古の亞細亞大陸には、如何なる民族が如何なる方面を根據地として活動してゐたのであらうか、さうして如何なる變遷を經て歴史上に現れてゐるやうな形勢狀態になつて來たものであらうか……といふことは、恐らく誰にも確證が摑めるものではない。よしんば民族學究者なり考古學者なりが、空想に終始した斷案をくだしたとしても、結局それは臆測に過ぎぬことであり、夢を追ふ空中樓閣でしかないのだ。

然し、體力と智力の秀れた民族が、氣候温暖で地味の豊沃な人類生活に最も適する地域を占據して此處を活動の根據にしたこと、それと反對に劣等の民族は寒氣きびしい曠野や沙漠地帶に追ひやられ、其處で生活と闘つて來た、といふ事實だけは、何人にも容易に考へられることからである。從つて、亞細亞の南部に據つた文化人の祖先は人類の優秀者であり、その北部に

欠

住んでゐた遊牧民の祖先が劣等者であつたことは、歴史の證明を俟つまでもなく首肯出來る事實だ。されば、南方では文化が着々と開け、國家が益々榮てゆくのに反し、北方の民族は、猶太古の狀態に止まり、禽獸に均しい生活を營んでゐたので、世界の大勢に關與することが出來なかつたのである。

然るに時代の經過と共に形勢は漸く變化を來たした。といふのは、南方では人智が進み財貨に惠まれるにつれ、人民は自から奢侈遊惰に流れ、遂には文弱の弊に陷るに至つたが、これに反し、北方住民は、寒熱の極端な曠野に甘んじ放牧や佃獵をその生業とし、奪掠鬪爭を常としてゐたので、自然に體軀は煉られ、强健な氣質を持つ騎馬民族に變じたのだ。だから、この北方民族が一度び勇將を戴いて南方に討ち込むに於ては、如何に南方民族が防備を嚴重にしても、亦如何に多くの軍兵を以てしても、之を擊退することは頗る難事の狀態を招來するに至つてしまつた。

かくして、南方の文明國と北方の遊牧民、卽ち土耳古、蒙古、女眞等の勢力に均衡がとれるやうになり、その間に戰禍の絕えることは無かつたのだ。要するに此の南北兩民族の對峙は、亞細亞の歴史を一貫する綱領であり、老大陸の運命は之が勝敗の如何に依つて決定されたものであると云ひ得られるのである。

南宋の末期に於て、蒙古が朔漠の偏地に風雲を卷き起し、禹城を始めとし、亞細亞の過半と歐洲の一部を征服し、世界史上に先例を見ない大帝國を建設したのは、もとより成吉思汗と其の子孫の力に因るものであるが、又之を一面から見れば、蒙古の天地が斯くの如き英才を產み出し且つ之に活動の自由を與へることが出來たのは、當時北方民族が秦朝の河北の地を收め、長城を築いてから一千餘年に亘る南北對抗の戰場に於て既に優越な地位を占めてゐたからだと云ひ得る。而して、亞細亞南方諸國の敗北が、近世に於ける此の大陸の衰頽を招來した大きな原因であると觀るならば、蒙古民族の勃興は單に東洋史上に於てばかりでなく、廣く人類史上の大局から見ても重大な意義を有するものと謂はなければならない。

ともあれ、元朝の沒落以來茲に六百年、西歐人種の世界征略は十九世紀を以て終焉し、人類史の動向は漸く轉機を劃したものと云ひ得る。卽ち、世界殖民地原住民族の自覺がそれであり、滿洲國の獨立がそれであり、更に近くは北支問題にハルハ廟事件にそれを見る。また、赤色外蒙と滿洲國との國境問題も、轉機から新たに一歩を踏み出した人類史の動向だと見られやう。これら大亞細亞の現狀を認識することは、吾々東洋人の責務ではなからうか。殊に赤色外

蒙のアウトラインを掴むことは、吾々に課された焦眉の問題ではないかと思ふ。

蒙古はどうなつたか、そして蒙古はどうなるか――に就ての一端はすでに本書の姉妹篇である『謎の祕境蒙古の全貌』に述べた。以下に記述するところは赤色外蒙古の現勢である。ソ聯の嚴重な監視の網をくゞり、交通不便な砂草地帶を踏査しての生きた記錄である。大方の御精讀を煩はしたい所以である。

外蒙古の境界と面積

外蒙古の東部は滿洲と境し、南は支那本土、青海及西藏に境し、西と北境とは蘇聯領に接してゐる。その面積は百五十五萬三千五百平方粁で、これを一九三一年一月六日から設定された新行政經濟區劃別に見ると、東部二十萬二千九百平方粁、ゲンティ部七萬五千三百平方粁、中央部十四萬九千三百平方粁、農業部六萬九千百平方粁、コソゴル部十萬七千二百平方粁、後ハンガイ部五萬七千四百平方粁、前ハンガイ部十萬七千七百平方粁、ザブヒン部九萬五千二百平方粁、ドルベツト部八萬四千百平方粁、コブト部七萬七千九百粁、アルタイ部二十萬七千百平方粁、南ゴバ部十五萬五千四百平方粁、東ゴビ部十六萬四千九百平方粁となつてゐる。

之を滿洲國の總面積百三十萬三千百四十三平方粁に比較すると、更に二十五萬平方粁も廣いのであるから、如何に廣漠たるものであるかゞ想像されやう。

外蒙古の人口

千九百二十四年、外蒙古內務部に設置された統計委員會の、千九百三十年度調査に依れば、外蒙古の人口總數は七十六萬人となつてゐる。これを男女別に觀ると、女子の數は總人口の四九・一一乃至四九・五五%に當つてゐる。(一九二四から一九二八年迄四年間の動態)

喇嘛僧の數は千九百三十年に於て十一萬人に達し、總人口の一五・〇九%を占め、經濟的に政治的に社會的に階級的に偉大な勢力を有してゐた。所がソヴェット聯邦の魔手の伸びるに從ひ、右翼派が次第に潰滅しこれに乘じて蒙古國民黨の勢力が擡頭しこれが彈壓に出た爲め、喇嘛僧の勢力は次第に失墜し、千九百三十二年にはその數も總人口の八・四%に激減してしまつた。

教育狀況を人口の上から觀察すると、外蒙古人の中讀み書きの出來るものは僅か四乃至五の低率であるが、蘇聯で極力指導してゐるため漸くその影響は現はれ、漸次向上の途を辿るやう

になつてゐる。

外蒙古で使用される言語は、チベット語、蒙古語、支那語、ロシヤ語、ドイツ語、フランス語等であるが、喇嘛廟及び寺院の勤行や經文が、皆チベット語なので、勢ひチベット語が最も一般に使用されてゐる。

外蒙の國家組織

外蒙古共和國建設の沿革　清朝の末期から支那は國權擴張殖産興業の名の下に、ロシヤの勢力を防遏するため、蒙古へ漢民族の移住を奬勵してゐた。然し蒙古人に對する支那爲政者の强壓ぶりは、次第に蒙古人間に不滿を釀成する結果となり、庫倫の活佛を中心とする喇嘛と王公は、ロシヤの支援を得て遂に支那革命の時機に乘じ獨立を宣言してしまつた。

その後千九百十五年の恰克圖條約により

一、外蒙古は支那の領土であり、支那に宗主權があること

二、外蒙古は自治權を有し、一切の內治、行政並びに商工業の性質に關する國際條約を締結する權利を有すること

といふ狀態に置かれた。ところが、千九百十七年にロシヤに革命が起り、外蒙古に於けるロシヤの勢力が失墜すると、支那政府は、西北邊籌使である徐樹錚の意見に從ひ、千九百十九年十一月、外蒙古の自治取消しを宣言し、同年十二月徐は庫倫入りを決行し、翌年の七月安直戰爭に依つて失脚する迄、同地に權勢を揮つてゐたのだ。

徐の失脚後は陳毅がその後を承けて支那の勢力維持に當つてゐた。が、支那人の壓政に對する外蒙人の不平は次第に昂まり、スウヘ・バトル、チョイ・バルサン、ロソル等は國民黨を組織し、蘇聯の支援を得て民族的國家の建設を策して庫倫から入露した。

蘇聯の壓迫から逃れてゐたバロン・ウンゲルン將軍の率ゐる千餘の軍は、極東方面の情勢の變化を見て取り、一九二〇年滿洲里方面から外蒙古に侵入し、蒙古自治恢復の旗幟を押しかざし、チベンテレ王等の蒙古軍を集めて之と合流し庫倫に攻め入つた。そして支那兵を逐ひとばし、政權はバロン・ウンゲルンの手に歸し、千九百二十一年一月十五日、活佛は再び卽位したのだ。時に政府は五省を設置した。

此の間入露してゐたスウヘ・バトル等は、蘇聯及第三インターナショナルの援助を受げてロシヤより歸國し、千九百二十一年二月二十二日アルダン・ブラツク（賣買城）に於て第一回國

民黨大會を開催し、三月十三日臨時政府を組織するに至つた。この政府組織宣言は、同時にウンゲルン軍の討伐を宣言し、外蒙古各地の革命黨員を動因してパルチザン隊を作り、義勇兵五百人を以て編成した蒙古國民革命軍は、スウヘ・バトルの指揮に依つて、アルダン・ブラック（賣買城）の支那軍隊を破擊し、七月六日庫倫に入城、同十一日國民政府は外蒙古の國權を繼承し、活佛を元首に、國民黨首領のホドを總理兼外務大臣とした。

所が、この政府なるものは、王公、喇嘛及國民黨の聯立であつた爲め、王公や喇嘛の特權に對しては何等の制肘を加へず、革命青年黨との間に確執を生じ遂に武力衝突となり、千九百二十二年十二月には早くも瓦解の運命を辿つた。

その後王公、喇嘛と青年黨との間に和議が成立し新政府が組織されることになり、その組織に際し、活佛の君主たることを認めること、宗教は之を保護することゝなつたが、千九百二十四年五月二十日の活佛の死に依り、國民政府及蒙古國民黨は、外蒙古を共和國と宣言し、七月六日各國に對して之が宣言を通牒した。

國民共和政府が組織されて後憲法議會の準備が完了し、十一月八日庫倫に大國民大會（大フルルダン）が叫集さるゝ運びとなつた。この議會に參集した者は七十七名で、そのうち台吉六名喇嘛九名で、殘り六十二名は全部平民であり、之を黨派別に觀れば、國民黨及青年同盟員が六十四名の多數を占めてゐた。

同議會に於てジノヴイエフ、カリーニン、チ、エリン、及在蒙ソヴイエート代表ワシリエフ、コミンテルンの代表ルイスクウロフ、ブリヤード自治共和國政府總理ールバノフ、及び蒙古國民黨中央執行委員長ダムバトルヂの七名が名譽幹部に選擧された。

此の議會に於ては憲法及宣言を協贊し、國旗、國璽が定められ、又コミンテルン代表の提議により首都の庫倫をウラン、バートル、ホト（赤き英雄の都）と改稱し、同年十一月二十八日に議會を閉會した。此處に於て『外蒙古國民協和國』は建設されたのである。然して之が改革事項は憲法中の『蒙古勤勞民の權利宣言』の中に列擧されてゐるが、その主なるものは

一、立憲君主政體を民主的共和國となしたること
一、土地森林、氷及その福利を國有としたること
一、一九二一年以前に締結せる國際條約及公債の破棄
一、外國人に對する個人及造營物の債務破棄及連帶責任の制度撤廢
一、經營の國營並に外國貿易の專賣制
一、徵　兵

一、政、教の分離
一、言論の自由
一、集會、結社の自由
一、教育の普及
一、平民職工に對する援助
一、男女、民族及宗教の同權
一、王公貴族の稱號及特權の廢止
等々である。

議會　大フルルダン（大國民會議）はアイマク民（地方民）市民、及軍隊の代表を以て組織し、議員は選擧人の人數に比例して定めることとなつて居り、第一回大フルルダンは議員數九十五人以上にすることに決議された。議員の任期は一年で、會期は通常大會は一年一回、小フルルダンの決定によつて召集され、臨時大會は小フルルダンの決定又は大フルルダン議員の三分の一或は選擧民三分の一の請求があつた場合に召集される。だから外蒙古國民共和國の一切の權力は勤勞人民に屬し、人民はその最高權を大フルルダン及び大フルルダンに於て選擧した

政府を通じて發動させることゝなつてゐるのである。而して憲法第四條に於て大フルルダン閉會中は小フルルダンに、小フルルダン閉會中は同幹部會及政府に屬することに規定されてある。

小フルルダンはソ聯の中央執行委員會に似て居り、議員數は四十五人、通常大會を一年に二回以上開會の規定があつて、春と夏とに召集される。臨時大會は小フルルダン幹部會の決定政府の申出又は小フルルダン議員三分の一以上の請求によつて召集することゝなつてゐる。これは憲法第十一條に規定されてゐるもので、會期は約十日間、その業務に就て大フルルダンに對して責めに任じ業務成績を報告する義務を有するもので、大フルルダン閉會中は國家最高の機關なのである。

幹部會は小フルルダンの總會に於て選擧された五人から成りその管掌事項は次の如くである。

一、小フルルダン議事指導
一、小フルルダンの會議材料の準備
一、同總會に法律案の提出

一、同決議實施の監督
一、政府の指導
一、大赦特赦問題の解決
一、小フルルダンの閉會中法令の認可、政府命令の政正の爲返還又は停止、但し此の場合最近開會すべき小フルルダン總會をして之を解決せしむること
一、大臣の任免
一、各省間の問題及爭議並各省に對する訴願の解決

政府の組織　政府は國家の一般行政を行ひ憲法第二十七條の規定により總理、副總理、軍事會議長、經濟會議長、軍總司令、國務檢査員、內務大臣、外務大臣、軍務大臣、財務大臣、經濟大臣、司法大臣、文部大臣なる十三名の政府委員を以て組織されてゐる。

軍事會議は軍務省の上級に在つて、軍の行動及國家の任務と軍務との關係を監督する軍事上の最高機關で、ソ聯の革命軍事會議に倣つたものである。

又政府直屬の機關として國事犯の搜査及び內外の敵に對する警戒のためゲ・ペ・ウエ（內防處）があつて絕大の權力を持つてゐる。これは勿論ソ聯のゲ・ペ・ウに倣つたものである。

地方自治　外蒙古に於ける自治制はハルハに於ては一九二三年、コブト區は一九二四年三月ダリガンガ地方はそれより遲れて施行された。

外蒙古國民の地方自治行政上の單位は、アイマク、ホシュン、ソモン、バク、十戶及び市とし、此等は何れも自治制の規定に從ひ、フルルダンを設け、フルルダンは各其の執行機關を選擧し、その任期は一年となつてゐる。

アイマクは蒙古のホシュン（旗）の上級機關で昔一親族關係にある各ホシュンの聯合體がその起源となつてゐる。その長は『汗』と號し、成吉思汗の直系後裔であると云はれてゐた。然し年を經るに從つて幾分變遷し、現在ではアイマクは單に一定區域內にあるホシュンの聯合體と見なされ、その行政は年に一回ホシュンシヤビの長又は代理者が會合して行ふことゝなつてゐる。この會合はセイムと云ひ、各ホシュンに對する租稅賦課を行ふのである。アイマクの兵事は政府から任命されたアイマ將軍の管轄に屬してゐる。

ホシュンは地方行政の單位であるが、旗長の權限は廣汎で、旗內行政に關する限り殆んど專制である。一般の秩序維持、法律の實施（立法憲はない）司法、徵稅、賦役の監督權を有し、旗の役所員の任命、徵兵、旗民出家の許可等に對する權限を有し、それらの行使はタムガ（印

務所）と稱する旗役所を通じて行はれる。

バグは行政上の利便のためホシュンより分つたもので、これは一定の遊牧地の如く地域は一定してゐるが戸數は一定してゐない。普通五六十戸位のやうである。

ソモンは元來軍制上からホシュンを分割した單位で、一中隊に相當し動員の隊は兵士百五十を以て編成したものである。その戸數は百戸乃至百五十戸で、一ソモン中には二三のバグを含むこともある。

十戸は元バグを十戸に分ち軍制上兵士十名を出したが、現在は二十戸乃至二十五戸に增加された自治行政上では最小單位のものである。

市政は現在は庫倫に施行されてゐるだけである。

右の外にシヤビ管區といふ元活佛の直領地民に屬するその戸數八萬五千を數ふる特別地域があるが、共和制となつてからはこの管區は漸次消滅の一途を辿つてゐる。

政黨　蒙古國民黨革命青年黨及びそれに屬する團體が存するのみで、その他のものは認められない。

對外關係

外蒙古國民政府は、一九二一年以前に締結された蒙古に關する一切の號約破棄を宣言し、自ら外蒙古民國を獨古國と稱してゐるが、未だソヴイエート聯邦以外からは承認されない爲め、ソ聯以外の外國との關係に止まり國交は設立されてゐない。

露蒙關係　ソヴエート聯邦と外蒙との交渉は、一九一八年、卽ちソ聯の赤軍が白軍に對し東方戰線に於て成功し、第一回第三インター大會を開催して東方民族赤化方針を確立した年に始まる。シベリヤに於けるソヴイエート政權の基礎が定まるや、露國にあつた蒙古青年はソヴイエート政府及び共產黨並びにコミンテルンの援助の下に、國民黨及び國民革命軍を組織して外蒙古に侵入するに至つた。

其の後一九二〇年の秋、ウンゲルン將軍が庫倫に入つたこと、並びにスウヘバドル等が露國から歸國し一九二一年二月十三日臨時政府を組織したこと、一九二四年七月十一日國民政府が正式に外蒙の政權を掌握した事等は既述の通りである。

而して同年冬、外蒙古國民政府は全權使節をモスクワに派遣し、ソヴイエート政府と修好條約を締結し、十一月五日兩國兩全權は之に調印した。茲に於て露蒙の新關係が明かとなつた譯である。その取り極めの前文に於て『露西亞帝國政府と舊自治蒙古政府との間に締結せられた一切の舊條約及び取極めは上記露西亞政府の陰險なる侵略的政策に基因したもので其後兩國に生じた新事態の結果として其效力を喪失したから』新たに協定をなすものだといふ旨を述べてゐる。又本取極め中に『兩國政府は相互に一個の正當政府たることを承認し（第一條）且つ相互にその版圖内に於て他の一方に對する抗敵其他敵意ある行爲をなすことを禁ず（第二條）』等の規定をなしてゐる。

一九二四年十月三日、在庫倫ソ聯全權代表ワシリーエフ及外蒙古外務大臣アモルの間に電信連絡協定を締結し、露蒙間及露國經由外蒙古と西歐各國その他との電信交換に關する條約を締結した。

これに先立ち一九二四年三月、露國は外蒙古に對する既得權を放棄し、支那の外蒙古に對する完全な全權を認めたにも拘らず、依然露蒙修好の取極めは取り消す事なく之を有效なものとして兩國の關係を進めてゐる。たゞソ聯赤軍は一九二五年春、庫倫に全權代表者護衛のため、一大隊（約二百五十人）を殘して他は全部撤退した。

ソ聯領事館はアルタンブラツク、ウリヤスタイ、コブトに開設されたが、現在サンベースにも副領事館がある。外蒙古側は今のところモスクワに公使館を設けてゐるのみである。

一九二六年六月六日、庫倫でソ聯邦全權代表ニキフオロフ及外蒙古外務大臣ドルリクジヤブの間にセレン河國營汽船船舶航行に關する契約が調印され、ソ國汽船は外蒙内河川を航行することとなつた。

滿洲事變後特にソ聯は極東に對し深甚の注意を拂ひ、殊に外蒙の防備に關しては愼重な態度を執ると共に、外蒙龍絡の徹底を期し、外蒙古政府に對し十分の三の軍備費割當を負擔させ、外蒙古一帶に大規模な軍事施設をなしてゐる。之に對し外蒙古國民黨中央執行委員會は猛烈に反對し、遂に各地軍隊の暴動、ソ聯官吏の殺害事件を頻發するに至つた。此の間青年革命同盟側は常にソ聯擁護の立場にあり、國民黨との對立は次第に激化するに至り、一九三三年十二月以降兩者は全く相容れない關係となつた。

外蒙古共和國は一九三四年七月十一日立國十週年記念祝賀式を擧行し、此の式典にトルコ駐剳ソ聯大使カラハン氏は露國政府を代表して參列し、こんな祝辭を述べた。

――外蒙古共和國は政府黨及人民の團結見事に完成し、文敎藝術の異常なる發達と、近代的軍事技術の修得により、國防及文化の中心勢力たる蒙古赤軍の組織に成功した。云々――

尙此の席上青年革命同盟は淸黨を宣言して國民黨分子を一律に驅逐すると共に、外蒙古共和國共產黨の改組を實行し、『外蒙古共和國』を改めて『外蒙古ソヴィエート共和國』となし、國民黨領袖カキルフを逮捕監禁した。

革命黨とソ聯の共產黨との間に協定されたと傳へられる密約の大要は左の如きものである。

一、外蒙古共和國はソ聯政府の斡旋を以て第三インタに加入す
二、ソ聯政府及び第三インタに加入せる國家は須らく一律に外蒙古改組の新國家を承認すべし
三、兩國內には兩國に敵對する團體の存在を許さず
四、兩國は互に軍事防備線を設け、若し軍事行動を起す場合は一致行動を執るべし
五、外蒙ソ國政府はソ聯政府の郵電事業連設を承認し且つ之を兩國の共同組織とす
六、外蒙古は必ず極東軍事施設を援助すべし
七、外蒙古の鐵道敷設權殊に張庫鐵道の敷設權はソ聯に於て之を占有す
八、兩國間の輸入稅率は他の協定稅率を超過するを得ず
九、以上の條約は一九三三年七月十日批准の上効力を發生するものとす

ソ聯代表　カラハン
外蒙代表　吉他兒

此の時外蒙古國民黨重要分子は革命派の彈壓を受けたが活動をつゞけ、國民黨軍二萬五千餘人は既に西庫倫邏達林一帶に集注し、巴冷布達を國民革命軍總司令に推薦し、該地に於て外蒙古國民政府を組織し、共產黨討伐ソ聯の侵入反對等を聲明した。

ホロンバイル南部國境に隣接したハルハ地方在住の蒙古人に對するソ聯政府の壓迫は殊に甚だしく、それがため同地の蒙古人は遂に虐殺を呪ひ、人心に大動搖を來たし、夜間監視兵の眼をかすめて逃亡するものが續出の有樣である。これら逃亡者は察哈爾、綏遠の各旗に交涉の上居往してゐる者が多い。

ソ聯が外蒙古を占據したことに依り、外蒙古に文化的諸施設が施されたことは事實である。例へば軍隊は近代的に裝備され、主要都市には輕工業の勃興さへ見た。然し之は總て外蒙古を隷屬させ、その富源を搾取しようとするソ聯の力の動きであつて、外蒙古人全體には何等の利益もないことなのである。外蒙古人口の九割を占めてゐる遊牧民所謂中產階級は完全に蒙古革命青年同盟を離脫して王公派に歸屬してゐる、奴隷を以て作りあげた蒙古青年同盟牧夫群の脫盟に依り最早實力を失つたと見ていゝ。外蒙古に殘るのは赤軍の砲口と彈壓のみである。ソ聯の對外蒙古政策は斯くの如き狀態であつて決して成功はしてゐない。寧ろ失敗に終らうとさへ

してゐるのである。その原因は

一、ソ聯當局は外蒙古人の家畜に對する執着心を無視して家畜を徴發した。

二、ソ聯當局は遊牧蒙古人の唯一の慰安の源である宗教を排撃した。

三、遊牧を生命傳統とする蒙古人に集團農制を布いて定住を强制したが、之は蒙古人の天性に相容れられなかつた。

四、凡そ資本主義組織に緣遠い蒙古に對し一擧に統制經濟機構を當て嵌めやうとした點に無理があつた等々と觀ることが出來る。

蒙支關係　外蒙古國民政府組織以來、外蒙古に於ては支那の權力は認められなかつた。國際關係に就てはカラハン馮玉祥密約、馮露協定として現れ、然も今日何等效果のないものであるが、某所の情報によれば、昭和八年の夏露支西北軍協定なるものが締結されたさうである。それは新疆省内に赤軍の設置、張家口庫倫間の自動車道路の共同保護乃支那邊境に於ける領土宗主權喪失を意味するもので極めて注意すべきこととされてゐる。

外蒙古は新政府組織後支那人の入國を制限し居住者を退去させる政策をとり、外務省は各地に命令して之を實行させた。

最近ソ聯の壓迫に堪へかねた外蒙古在住の中國勞働者は豫て庫倫を中心に勞働組合を結成し、當局に對しその待遇改善を要求してゐたが、遂に組合員七千六百餘名の多數にのぼり、その態度は一層硬化し、一大暴動勃發の機運さへ釀成するに至つた。事態を憂慮した當局はこの情勢を緩和するため左記三ケ條を提示し、妥協させたので、以後は支那人に對する壓迫も幾分緩和された模樣である。

一、中國人勞働者の外蒙古内勞働地區制限を撤廢す。

二、商業の自由を認む。

三、庫倫官業銀行を通し一人當り月十元の本國送金を認む。

蒙滿關係　外蒙古がソ聯の權力下に屈伏してゐる今日、外蒙古と滿洲國との關係は微妙且つ複雜となつて來てゐる。國境問題、不法越境問題等々々なかなかやゝこしく、ソ聯の壓迫を脱して滿洲方面へ逃亡して來る外蒙古人の屢々あることも甚だ注目すべき問題だと思ふ。

軍事狀況

赤軍　ソ聯は外蒙古に軍司令官を派遣し赤軍總兵力約五師團をアンベース方面からボイルノールの全南岸一帶、ハルル河を經てソロンに配置してゐる。外蒙古の首都であり且つ軍備上の中心點であるだけに庫倫には殊に軍備が集注され、騎砲機關銃隊混成兵一萬八千名、砲大小四門、高射砲七門、重機關銃百三十、輕機關銃二百四十、裝甲自動車十八臺あつた。(現在は更に增加してゐる)又空軍は各種飛行機十二臺を有してゐたが、更に收容能力二百臺の大格納庫が完成し、空軍第九隊長ボラフ氏が爆擊機二十一臺偵察機二十三臺を率いて着任したが、その後空軍は更に充實した模樣である。尙庫倫には赤軍の科學兵器製造所があり、一九二四年七月二十六日エリウエドモフ少將が技師三十餘名を率ひて着任し、之が製造に當つてゐる。

赤軍の駐屯地として有名なサンベース飛行場には四百五十機の軍用飛行機があると傳へられてゐる。

尙、ケルユルン河左岸のツエツエハン飛行場には約三十機より成る爆擊隊が配置されてゐるし、ハルセン廟からウルシュン河下流右岸には赤軍自動車隊騎馬隊の巡邏兵があるし、ボイルノール附近には騎兵旅團並びに步兵々團がある。また、ハンヘテイには騎兵隊五百、砲兵部隊機關銃隊、戰車六臺、裝甲自動車若干、新築木造兵舍及び八十餘の砲あり、烏里我蘇臺には獨立派遣軍に補給する經理部あり、ツヂアンシアビに一ケ聯隊、エルデニツズウに一ケ聯隊、フンザールにバルチザン隊、賣買城に兵管七、軍需品工場三、飛行場格納庫、陸軍學校があり、西部線國境は第一線第二線によつて完全に警備され、出入は絕對に不可能交通は杜絕、まさに無人の境となつてゐる。

蒙古軍　蒙古軍の總數は七萬五千と推定されてゐる。徵兵檢査は每年八月滿二十一歲の壯丁全部に對して行ひ、兵役年限は二ケ年である。又每年四月滿三十一歲、二歲、三歲の壯年者を召集して三ケ月間軍事敎練を行つてゐる。蒙軍の編成は五ケ師團から成り、一ケ師團は四ケ兵團、一個兵團の兵力は二千五百となつてゐる。各兵團は四個支隊から成り、各支隊は四個の小部隊から成つてゐる。

其他　ソ聯の外蒙に對する軍事的支援としてブリヤード人から成る軍隊を以て適時之に充つ

べく準備がされ、其他七千名のソ聯指導員五百名のソ籍勞働者及び農業建設のため一千五百名のソ聯人を入蒙させてゐることは輕々に看過出來ない偉力といふことが出來る。

教育

蒙古には從來教育はなかつた。だから住民が蒙昧で文字に通ずるものの極く少いことは言を俟たず、一九一一年外蒙古獨立當時よりの政府の教育普及宣傳も效果少く國民政府創立後相當數の學校を設定されてあるが、財政と教育者の不足から、學校經營には非常な困難を感じてゐる模樣である。

現在庫倫に專門學校としてコオペラトル教員及司法官養成所一校、宣傳學校一校、中學校一校あるが、養成所は修業年限一年所生百名、宣傳學校は官費校で學生數三百名に過ぎない。また

ウエルフネウジンスクには師範學校が一校ある。

小學校は各都市及アイマクの中心並びにシヤビ管區に開設してあるが、校舍は殆んど蒙古包で本建築のものは僅か六校に過ぎない。

教科書は多くソ聯の飜譯もので、海外留學生は露語通譯の必要上多くレニングラードの實用東方語學校に學び、稀に獨佛にも學ぶが、之等は主として貴族階級に屬するもので、一般人民の教育程度は讀み書き可能の者三萬内外、全人口の四%强といふ低率ぶりを示してゐるのである。が、このパーセンテーヂはソ聯の指導に依つて漸次向上してゐることは事實である。

宗教

元の世祖は吐魯蕃征服の政策上、ラマ教を利用し發思巴を帝師として西藏を領有させ、以後歷代の君主又大いにラマの尊信を續けたが、之が爲めに國費の負擔を增し、僧侶の跋扈甚だしく、遂に元朝滅亡の一原因となつたのだ。

清朝以來蒙古民族の生活の半面にはラマ教が伴つて一面には民心の教化にその實蹟を擧げたが、後年僧侶の惰落教義の廢頽は却つて民族の因循、懶惰の氣風を釀成し、生活經濟窮乏を促進した。然しラマ教は一般蒙古民族特に王侯階級の間に拔くべからざる大勢力を持つてゐる。蒙古共和國成立當時の無統制な宗教彈壓の失敗に鑑み、ソ聯は蒙古經略の第一歩として巧みにラマを操縱して成功を捷ち得たものである。

且つその裏面に於てソ聯はラマ教撲滅を企圖し、一九三〇年以降に於ては明瞭な宗教彈壓の

政策を敢てし、十八歳以下の少年の出家を禁じ、年少の僧の俗化を强制してゐる。此の經緯は外蒙古ラマ僧員數は一九二五年に激減を來して以來高率な增加を示し、一九三〇年に於て十一萬人卽ち總人口の一五、〇九%に達し、以後激減して一九三二年に於て八萬二千人卽ち總人口の八、四%になつたことが之を示してゐる。

然し蒙古に於けるラマ僧は蒙古最高智識で、文化的にも政治的にも偉大な勢力を有し、數の上から見ても蒙古男子の四〇%といふ世界無比の高率を示してゐるのである。がソ聯の希臘正敎徒信者撲滅の延長政策が外蒙古に於て如何なる影響結果を齎すかは、今後相當注目さるべき大問題だと思ふ。

經濟及び貿易

ソ聯の經濟的侵畧 外蒙古の經濟狀況を檢討するに當つては、先づソ聯との關係に重點を置かなければならない。露國の對蒙經濟侵略は歷史上首尾一貫してゐる。卽ち帝政政府が抱懷してゐた計畫や理想は、過去十年間に亙つてソ聯邦政府が踏襲し之を實行してゐるのである。而してソ、蒙間の關係はソヴエート政權出現後一變したことになつてゐるが、裏面の勢力が依然として存續してゐるのは皮肉な現象である。二十世紀の初期に於て初めて對蒙事業に着手したものは露國の商人や會社ではなく、帝制政府そのものであつたが、ソヴエート政府も亦對蒙貿易のためには同樣に指導的役割を努め其の手先となつて中央集權的の國營貿易機關が縱橫に活躍してゐるのだ。

政治及經濟政策の巧妙な使ひ分けは、戰前戰後を通じ、露國の對蒙政策の特徵であつて、戰前戰後共に政治的權謀術策は經濟的支配に對する桿杆の作用をなしてゐた。

一九二一年、ソ蒙間に締結された修好條約は、ソ聯の對蒙輸出に對しては最惠國待遇を與ふること、ソ聯民に土地賣買の權利を附與すること、露國の對蒙債權を拋棄すること、舊露國政府所屬の郵便、電信設備に對する蒙古の回收を認めること、の五ケ條で、更に一九二四年ソ聯に範を採つた共和國憲法が發布されたが、その憲法に依つて、一切の私有財產の否認、總ての天然資源の國有化、國家管理に依る統制經濟政策の採用等が宣言され、外國貿易も亦事情の許す限り獨占すべき旨が聲明された。此の外蒙古共和國とソ聯間には、カリーニン及びチチエリン其の他ソ聯政治家領袖が第一回外蒙古憲法會議で名譽幹部に選擧された一事に見ても密接な關係にあることは明かなのである。

然し之より先、既に兩國間にはソ聯の經濟政策遂行に有力な桿杆となつた取極めが、一九二三年に締結されてゐた。右取極めによれば、

一、貴族の土地及び財産上の世襲を廢止し、而して國家開發の爲めソヴェート組織に依ること

と

二、無主の土地は蒙古及ソ聯の貧民に與へ耕作させること

三、天然資源の開發並びに産業及び貿易の發達に關する事項をソ聯專門家に委囑すること

四、蒙古勞働者と協同開發の爲め鑛山を露國コーペラチーフへ引渡すこと

五、ソ聯邦代表が蒙古裁判所員となり、露國人關係の事件に就てはソヴェートの權を有す

と云つた甚だソ聯に取つて御都合の良いものなのである。又他方貿易に關しては、一九一九年以來、ソ聯のシベリヤ地方消費組合同盟が外蒙古で活動してゐたが、一九二四年に至るまでの貿易は頗る微々たるものにすぎなかつた。而し同年からシェルスチ（羊毛輸出部）シブ・ゴストルグ（シベリヤ國營商業部）ナフタ・シンヂケート等のソ聯會社が活動を開始し、更にモン・ツエン・コーブ（蒙古中央消費組合）がソ聯貿易機關と同一の建て前で開設された結果、ソ聯の對蒙貿易は急速な發展をなし、又同年には內外爲替業務を獨占せる蒙古銀行が國立銀行と協同出資で開設された。これが資本の五割はモスクワ國立銀行に屬するものである。

この銀行設立によつて初めて外蒙古に通貨が現れた。そして、蒙古經濟生活の新しい試みとして、制定された幣制は銀本位で、新通貨の單位はトウゲリツクと云ひ、品位は十八瓦の純銀を含み、墨西哥一弗（露貨九十哥）に相當するものである。此の制度の設置に付いては、ソ聯の經濟學者が大いに盡力したが、ソ聯はこの幣制々度を以て支那人高利貸しの金融束縛に對する蒙古人の解放、國家豫算の確立、金本位採用の準備手段であると大いに稱讃した。外蒙古の現狀では蒙古銀行及新通貨に關する信賴すべき情報を知ることは困難であるが、外蒙古人が右制度に依つて支那貿易商を驅逐した事は疑ひない事實であらう。

斯くして一九二六年以降ソ聯の商取引は益々發展したが、之に反し、從來外蒙古で好調に貿易を營んでゐた外國商殊に支那商は、外蒙古政府の私營貿易壓迫の爲に漸次沒落の悲運に陷つた。

其後一九二八年、外蒙古の通商代表團がモスクワを訪れ、更にモン・ツエン・コーブとの合同强化に付いて商議を進め、その結果ナフタ・シンヂケートを除く一切のソ聯貿易機關はソウ・モン（ソ蒙會社）と稱する單一會社に合同されたが、この合同政策は觀面に效果が現れ、

ソ聯の對蒙貿易は急激な發達を遂げ、英米及支那商は大打擊を受けた。即ち一九一八年當時には支那商は四百を算し露國商は僅かに五〇に過ぎなかつたが、一九二六年七年度に至つては、六十の支那商が沒落し、又有力な英國の二館も遂に退都の餘儀なきに至り、外蒙古產羊毛の八〇%はソ聯の手に歸した。その結果、外蒙古の輸出總額に對するソ聯の割合は一九二四年の一七パーセントから一九二六年には二九パーセントに增加し、羊毛の輸入に付いても一九二四年の一八%から一九二六年には七七・七パーセントに激增した。羊毛貿易に就てはソ聯は一九二八年に事實上外蒙古からの輸出を獨占し、最大の外國羊毛會社も遂にソ聯の手に買收されるに至つた。

現在支那は對蒙貿易として唯少量の茶を輸出してゐるのみで、從來支那商が取扱つてゐた外蒙古產の羊毛、毛皮、及鞣皮の如き委託販賣品は、支那の中央市場に全然見受けられねやうになつた。

ソ聯の對蒙輸出物中穀物及石油の輸出は特に他の品物を凌ぎ、然も大戰以來年漸增を示してゐる。而して穀類は從來滿洲產の穀物特に稗が外蒙古市場に相當輸入されてゐたが、現在では全くその影を潛め、之に代つてソ聯邦產の大麥、燕麥、稗等が市場に幅を利かしてゐる。此の輸出增加の狀態は露國が一九一三年以來外蒙古へ輸出した麥粉及其他穀物に關する輸出統計に明かである。

同樣に石油の輸出も亦穀類と等しいカーヴを描いて激增し、一九一三年當時は僅かに九十一噸を輸出した程度であつたが、一九三二年には二千餘噸に增加した。この他織物、砂糖、セメント、電氣器具、金屬及其の裝品、食料品、煙草、化學藥品、糖菓生及び乾燥果實、マカロニ手工細工品、香水、石鹼、フキルム、畜音器、鷄卵、硝子及び陶器等も年々輸出增加を示してゐる。在パリのソ聯通商代表部が、ソ聯一九三一年度の外國貿易に關し、外蒙古はソ聯邦品を輸入する國家中で品目の多種たること第一である、と記述してゐることを見ても如何にソ聯の貿易が進出してゐるかを伺ふに足る。

外蒙古はソ聯にとつては二重に役立つてゐる。即ちソ聯は外蒙古を世界革命の重寶及び實驗室と見做し、又同時にソ聯へ必要な原料を供給する貯藏所と認めてゐる。過去五ケ年間に於ける。英米會社及び支那商の外蒙古に於ける慘敗の歷史を見るならば、外國の對蒙貿易が將來見込み薄く、且つ困難な事を示してゐる。尙ソ聯の對蒙經濟侵略は積極的世界革命の國際的經濟反應が何んな結果になるかを明示するものである。事實自由競爭の基礎に於ては充分確立して

ゐた支那貿易を斯くも短期間に驅逐する事は不可能であつたらう。

ソ聯は政變に依つて外蒙古の憲法及び經濟機關を自國の思ひ通りに改造して、强敵である支那人や羊毛及び毛皮の競爭購買者である英米商等の個人企業を非合法的なものとして貿易に從事する事が出來ぬやうにし、自國の貿易機關に關する邪魔者を一掃し、外國競爭者の問題を解決したのである。

然しかゝるボルシエウキキ的政策は何時迄も永續して成功するものではない。支那商人の不滿は暴動勃發の機運を釀成し、ソ聯當局に於ても二ケ條の妥協案を提出するに至つたことは上述の通りである。

又最近ソ聯の重壓に堪へ兼ねて滿洲里に逃亡して來た庫倫消費組合の書記ブリヤート人タンパ氏は外蒙の近情就て左の如く語つた。

――一九三三年に於ける外蒙古の經濟狀態は窮乏のどん底にあつたが、本年に至つて漸次緩和されて來た。以前は商取引は消費組合の手によつてのみ行はれて來たが、現在では個人の自由商業が行はれて居り、市場はソ聯の商品で埋まつてゐる。之等ソ聯の商品は一九三三年末庫倫に設立されたソヴエート・モンゴル貿易商會の手に依つて各地に配給されて居り、ソ聯の商

品は全商品の八〇%を占め、殘りの二十パーセントが支那商品である。云々――

財政

政府豫算　外蒙古政府は初め國家の收支豫算を編成せず、その必要に應じて支出することとしたが、之は國家の收入科目等を調査し難い狀態にあつた故らしい。一九二三年に至つて歲計豫算を編成することになつたが、外蒙古の歲出入は國費と地方費に分れ兩者の區別に明確を缺き、驛遞費の如き一般國家的事業は舊來の習慣に從つて地方費で支辨してゐる程である。費目は至つて簡單で、各官廳とも一、俸給、二、事務所費、三、家屋維持費、四、修繕及び物品購入費、五、交際費、六、雜費、七、豫備費の七種目に過ぎず、雜費は馬糧から調査費に至る迄他の費目に屬さないものゝ全部が入つてゐる。

從つて豫算の編成は錯雜で統一がなく、各官廳が收入を別々に計上して之を直ちに豫算委員に提出するのであるが、該委員は各省の代表者より成つて居り根本から査定しなければならない事もあるので、その事務は數ケ月の長きに亘る事もあるといふ。

出納は中央集權主義であるが、豫算の七割は庫倫で地方は殘りの三割程度である。會計年度

は從前は舊曆三月一日から始まつてゐたが、一九二五年以來以降陽曆を採用するやうになつた。

租稅　外蒙古政府の收入の約半分は租稅であるが、政府は直接稅の設定を避ける方針を執り主なる財源は間接稅に需めてゐる。間接稅中の主なるものは輸入關稅であつて、關稅率は普通貨物は從價の六分、タルバカンは九分煙草製品は一割二分であるが、その他市稅として五厘を附加してゐる。

一九三五年の大フルルダンは關稅を改正して差別稅率を定め、自國產業保護主義を加味する事とし、商品によつて等級別を設けることを決議してゐる。尙この大フルルダンでは、關稅は原則として重量又は物品の單位に依り加稅し、從價稅は特別の場合に限るを決議した。

稅關は關稅法の規定によれば四十一ケ所となつてゐるが、未だ全部は完成してゐないやうである。

國民政府は關稅の外、初め商工業に關する稅として商工業鑑札（營業稅）、基本資本稅、收益稅、商店員稅等を設定したが、一九二二年商業の發達を圖るため、收益稅及び店員稅は廢止した。

租稅に關する政策として一九二四年の大フルルダンは、直接稅は人民の重荷とならぬやうに考慮、累進課稅は實際に貧民の狀態を救濟するを旨とする、個人商業は之を抑壓するを必要とする事情にあるから重稅を課すべき旨等を決議したのだつた。

外蒙古人の最大の財產は家畜である。從つて租稅も家畜に對するものが多く、依つて財務省は一九二五年の秋、單一家畜稅法案を建て、其の根本原則を同年の大フルルダンに於て決議し一九二六年の大フルルダンは一九二七年より之を實施する事の認可を與へた。同法の原則は左の如きものである。

一、地方自治機關の獨立課稅權を廢止す
二、稅率は一切政府に於て決す
三、累進課稅の最高率は單位の二倍半とす
四、寺院所有家畜も一般と同樣に課稅す
五、貧困者に對する特典、五ボド以下は免稅とす
六、驛遞に從事する馬匹は本稅を免除せず
七、徵稅期は二月七月の二期とす

牧畜

外蒙古は牧畜の國　砂丘から出て砂丘に沈む陽が、漸く姿をひそめて大蒙古高原に淡い光りが漂ふ頃、羊の大群を逐ふ牧童の笛の音が、原始的な單調なリズムを振り撒き乍ら寥々たる草原を渡つてゆく光景は、蒙古ならでは目擊出來ない所であらう。七百年前の成吉思汗時代と何等異なるところの無い原始的放牧と狩獵――これが外蒙古自治共和國に於ける唯一の基本的産業である。其處には他國に見るやうな工業はない。農業もない。外蒙古人の九十一パーセントは皆同一な業務たる畜産業に從ふ牧夫なのである。

だから外蒙古の經濟機構に於ては家畜は種々なる經濟的機能を遂行してゐる。曰く、住民に食糧を與へ、住居燃料を供給し、又交通運輸の原動力となり、稅金その他の支拂金代用ともなつてゐる。斯くの如く外蒙に於ける牧畜の盛んな理由は、一、五五三、五〇〇平方粁といふ廣漠たる面積を有し、加ふるに人口は一平方粁に〇・五人といふ密度の少いこと、高原地帶であり空氣が乾燥し、雨量少く又冬季積雪量も少く、草原地帶の多いこと、土壤中に多量の鹽分を含有し、且つ植物は曠野的で野草の質が飼料に適してゐること等によるもので全く天然の諸條

件が牧畜に好適してゐるのである。然して國民全收入よりこれを觀れば、牧畜は全收入の約六〇％を占てゐる。從つて外蒙古の産業を研究するに當つては先づ牧畜業に重點を置かなければならない。

家畜の種類　現在外蒙古自治共和國には馬、駱駝、牛、羊、山羊の五種の家畜がある。西曆一二四六年、外蒙古を訪れた佛教の使徒ブランカーピニもその「蒙古事情」の中で以上五種の家畜の名を擧げてゐる。之に依つて觀れば蒙古の牧畜は昔からこの五種だけだつたと觀ることが出來る。

馬　蒙古馬は體軀が矮小で丈も高くなく、身長も一・四メートル内外のものが多い。頭は大きく首は短く、背は扁平で、形態は我が國のものの如く優美なものではないが、脚は強く蹄堅く、忍耐と持久力も至つて強く、一日の行程百二三十粁に及ぶものは珍らしくはない。

この馬が各種の利益を住民に提供してゐることは言を俟たない。卽ち商品として支那及びソ聯の近接地帶へ多量に輸出されるのである。又未だ馬具を知らない荒馬でさへ容易に駄馬用と

して運送作業に使役され、約四ブード位（一ペードは我が國四貫三百六十八匁强）の荷駄に堪へ得られる。

馬は千頭二千頭と群をなして放牧され、飼料は野生の牧草ばかりである。蒙古人は夏季になるとクムイスといふ冷く且つ榮養に富んだ飲料をつくるため牝馬から仔馬を分離させ搾乳する。牝馬一頭の搾乳量は一年約五十マエドロ（我が國の三石四斗九合）である。放牧に際してはその繁殖を計るため牡一頭につき牝十五頭乃至二十頭の割合とされ、仔馬は二ケ月間は母乳で保育される。

駱駝　蒙古の駱駝は二瘤駱駝に屬してゐる。飼料は割合自由で綠汁の多い軟草でよく發育し、又時には最も粗惡な草や蒯のある小植物をも好んで喰べる。食料や水の缺乏してゐる際でも十日から十五日間位は食を採らないでも勞働力を失はないのである。駱駝の健康は背の瘤の形狀で觀別することが出來る。卽ち瘤が垂直に立つてゐて堅い時は健康であるが衰弱すると瘤は軟くなり横に傾いて來る。

運送と乘用に使用され、一二乃至十三ブートの荷駄が可能であり、運輸の場合の一日の行程は平均三十露里（一露里は我が九町六間四尺强に相當）である。

發育した駱駝一頭からは、年平均九フント（一フントは我が一〇九匁は當る）の毛を採取することが出來、これを蒙古人は自身のために利用したり賣却したりする。

牛　蒙古の牛には普通蒙古牛、サルカイク、ハイコク、オルトムの四種がある。

普通蒙古牛は體形整ひ長い毛を有してゐるが、丈は餘り高くない。牝牛の乳量は平均一年に約五〇ウエドロ位でこれに六%程の脂肪を含んでゐる。蒙古牛は年々商品として多量の肉がソ聯に輸出され、又蒙古住民の食糧として或は荷駄用としての利用價値を持つてゐる。

サルルイクは一名ヤクとも云ひ、普通蒙古牛よりは稍々小さいが嚴寒に對する耐久力、使役に對する、忍耐力は强大である。サルルイクには角の無いものが多い。その肉は普通蒙古牛よりは稍硬く味も劣つてゐるが、多量の輸出が行はれソ聯は之を以てカルバスの製造に用ひてゐる。乳は牛乳よりは遙に良質で脂肪分は約一〇%を含有してゐる。サルルイクの毛は毎年一回剪取られて繩や投繩の製造原料に供される。

ハイニクとオルトムは蒙古牛とサルルイクの混血種である。蒙古牝牛とサルルイクの牝との

間に生れたものがハイニクであり、その反對のものがオルトムである。牡ハイニクは蒙古牛よりも強大であり、牝牛は乳量の豊富なことを以て有名である。一頭から年約八十ウエドロを搾乳出來、約八%の脂肪を含有してゐる。

山羊　山羊は羊群の道案内者として尊重されてゐる。山羊の乳は羊の乳と共に蒙古人にとつては、藥用ともなり、又貴重な飲料とされてゐる。毛は家庭用として絨毛等に用ひられ、ソ聯に向けても多量に輸出されてゐる。

羊　蒙古の羊は純白と純黑のものは稀で、頭、首、胴等に黑い斑點を持つてゐる。體軀は比較的大きく、牡は身長十八ウエルショーク（一ウエルショークは我が約一寸四分六厘六毛九）牝は十五乃至十六ウエルショークに達して居り、體重は肥滿したもので約一、五プードである。生後七八年になると全部屠殺されて食用に供せられるのであるが、屠殺後の肉の重量は體重の約五五パーセントである。

右の各家畜から得られる收入の比率を觀ると、馬四%、駱駝一五、牛類二四%、山羊二五%羊三二%となつて居り、牧羊が第一位にあることがわかる。

牧畜業の組織形態　蒙古の牧畜は出來得る限り勞働力を少くし、自然が容易に供給するものを採取する、自然と偶然の成すまゝにといふ至つて簡便な經濟組織の上に立つ原始的遊牧形態である。

外蒙古は北部地方、中部地方、南部地方に區分して考へることが出來る。北部地方は山地で森林地帶と草原地帶の混合地域で、中部は前ゴビ砂漠地方の草原地帶、南部はゴビ砂漠地方である。斯うした地域の關係から牧畜の遊牧的形態から土地の集約的利用への推移は、一般的に見て困難な狀態におかれてゐる。北部は草類が豊富で河川も多く又耕作を營むことが出來、中部は丈の低い草と小叢が多いが半乾燥地帶で南部は貧弱な植物があるばかりで有莉植物及びゴビ砂漠特有の硬い小さい草に覆はれ、氣候は暑い。この種別に依る三地域の自然の狀況に從つて各種家畜の分布區域にも影響してゐるのである。

土地は共用であつて旗の使用に任せ、王公も喇嘛僧も庶民階級も土地に對しては同一の權利を有し各自の家畜を放牧してゐる。然し、飢饉とか旱魃その他の特別の理由の無い限り、又は所屬行政機關（即ち旗廳）の許可なくして一旗の家畜を他旗領域内に移すことは出來ない。

各世帯間或は各世帯より成る團體間に於ては强制的な制當といふものがなく、お互に他を侵すことなく、それ〴〵自分達に慣れた場所で遊牧を行ふのである。

喇嘛教は青草を刈取ることを罪惡だと教へてゐる。そして又蒙古人の間には「青草を刈取ることは穀物に降霜を來すことになる」といふ口傳が行はれてゐる。だから一年を通じ野生の牧草にのみよつて飼育されることになるので、草の生長狀態に從つて轉々と移行しなければならない結果となるのである。家畜の群は常に外氣の下に置かれ、自然力のあらゆる影響を受けると共に野獸の襲擊に遭遇することがある。然しロシヤ人及ブリヤード人の間では「追ひ込」や小屋を建て、或は又乾草や糧秣で飼育してゐるが、これは北部國境地方に限られ、此の地方の蒙古人間には次第に此の文化的慣習に實例を以て教訓づけられてゐる蒙古人を散見することが出來る。

蒙古人は遊牧期を春、夏、秋、冬の四期に分類してゐる。冬季は蒙古人は家畜を伴れて山の中で過ごすのであるが、獸疫の爲多數の家畜が斃死する。春になると家畜を追ふて平地に、河に近い場所に移行する。其處で家畜は牧草及水地を求めるのである。夏は山地であつて水源のある涼しい場所に移り、秋は春の場所に歸り、初霜と共に彼等は再び遠い山地の冬の場に選つてゆくのである。だが、冬を越す牧地にも家畜のための水飲場所は無く、蓄へられた乾草もない。家畜は自分で雪を割り霜を破つて水を飲み、草を求めるのである。然し數百年來この困難な條件に慣らされた家畜は、比較的耐寒力があり飢渴に對する耐久力を持つてゐるのである。

鑛業

石炭

探檢と地質學上の調査に依つて外蒙古の石炭產地が次の三個所にあることが判明した。

一、中央アイマクに於けるウラン・バートルから東南方三三粁のナライハ

二、東部アイマクのバイントウメニハンから南方一二粁の地域

三、西部アイマクのコブト山から東南一〇〇乃至一二五粁のバトウイルハイルハン山中

右のうちナライハの石炭產地面積は西部はナライハ山脈から東部はナライハ河の溪谷に至り石炭層は東北方に延びてゐる。その中に二つの石炭層が露出してゐるが、一は古くから採掘されてゐた爲に「稼行層」といふ名稱で知られてゐる上層部と、他は單純地層により區分されて

ゐる多くの石炭層から成つてゐるので「合成層」と呼ばれてゐる下部層とである。

稼行層の厚さは〇・七五米乃至二八〇米間を、合成層の厚さは三・五米乃至四三米間を上下してゐる。石炭埋藏量は稼行層約三〇〇萬ブードで合成層の尨大な厚さから推して、ナライハの全石炭埋藏量は略々三億ブードと推定されてゐる。

バイントウメニハン市附近のものは將來多少望みをかけられてゐる第二の石炭產地である。炭の鑛脈は一九二七年道路建設中偶然に發見されたもので、この石炭は褐炭の部類に屬し、石炭の散在するのは地表から五米乃至八米の深さで、層の厚さは二十六米に達してゐる。埋藏量は相當に豐富らしいが、この石炭は一八パーセントに及ぶ相對的濕度を持つといふ缺點を有してゐる。炭坑は居住地から南方十二粁の所にあり、作業は非常に活潑に行はれてゐるといふ。

第三の石炭產地は西部蒙古の喀喇烏蘇湖から南方蒙古アルタイの西支脈內の三個所に散在してゐるのである。その一はツアガンチヨ河の上流バトウールハイルハン山脈の西南部斜面、その二はホンゴルトロゴイ河の上流バトウールハイルハン山脈の西側、その三はツゼルギンスメから東北一四乃至十五粁のボロブルグ水源地附近のツゼルギンワツヅン河の流域の東北部である。

外蒙古工業開發五ケ年計畫は尙他の場所に於ける石炭採掘の可能性をも期待してゐるので、その踏査に對し二〇〇、〇〇〇銀弗を支出する準備を有してゐる。

採金業　金は三ケ所に於て多量に發見された。土謝圖汗部巴圖爾貝勒旗にはモンゴロル金鑛があり、三音諸顏汗部の南部拜達哩河盆地のは埋藏量二、三萬ブードと算せられ、蒙古アルタイ山脈（三音諸顏汗部）には採掘未着手の豐富な砂金床を有してゐる。又現在ソ聯の全產金額の約六〇％を產出するといふ金床はコソゴル湖東方のウリ河及その支流一帶に亘つて存在してゐる。然し採金開始の時期及採金量等は作業が大部分祕密裡に或は外蒙古地方官憲のみの許可で行はれるので知ることは出來ない。

戰雲を孕む國境

外蒙軍の越境問題が最近頓にやかましくなり、國際的に問題化してゐることを讀者諸氏はすでに御承知のことゝ思ふ。この越境の裏面にソ聯の魔手が伸びてゐることは以上記述した各項を詳細に檢討して頂けば自ら首肯して頂けることであるが……

さて、最近關東軍の發表したところに依ると外蒙國境の風雲は愈々急となつた。ばかりか、去る三月三十一日には、タウラン東北方地區で越境外蒙軍と我澁谷部隊とは遂に戰火を交ふるに至つた。

その日敵の兵力は輕爆擊機十二機、裝甲自動車十三臺、騎兵約三百、歩兵自動車兵約一中隊で、午後一時半頃我が澁谷部隊が滿蒙國境附近の滿洲國内を巡回してゐると、突然輕爆機十二機は先づ空中から約七十の爆彈を投下し、續いてその後も對地機關銃射擊を行つた。投下爆彈は二三十發は不發に終つたが、之につゞいて敵の裝甲自動車歩砲兵自動車部隊及騎兵部隊は前面及側面から我が部隊に向け猛烈な攻擊を開始した。

こゝに於て澁谷部隊は直ちに戰鬪準備を整へ、對空機關銃射擊で忽ち敵機三機を擊墜し、他の三機に大損害を與へて之を滿洲領内に不時着陸させた。更に殘る六機が勇敢にも對地射擊に移つたので、敵機の我に近づくを待ち、猛射を浴せ、二機を敗走させてしまつた。

これに引きつゞいて行はれた敵地上部隊の攻擊は、その兵力大きく、機械化部隊だつたにも拘らず短時間の戰ひを以て之に大損害を與へ擊退した。

この戰鬪に於ての澁谷部隊の奮鬪には頗る目ざましいものがあつた。殊に平本中尉、落合特務曹長、佐野上等兵の奮戰は日本武人の全面を發揮したものだつた。

この戰鬪に於て我が空軍は、戰鬪の終らうとする頃漸く敵機を發見し、之を追擊したが遂に戰鬪を交ふるには至らず、外蒙領へ遁走させたのだつた。

然し、翌四月一日敵裝甲車三十臺、歩砲兵自動車九十六臺が前日滿領内に不時着した飛行機を奪回すべく滿領内二十キムに侵入した所を我が空軍は之を發見し、存分の攻擊を加へ、其の隊伍を亂し、一部を混亂させたのだつた。この空擊に依つて附近一帶の積雪が鮮血に彩られたのが機上からはつきり見えたといふ。

この戰鬪で敵に與へた損害は、擊墜した飛行機三機、損傷のため戰鬪離脱の止むなきに至つたもの五機の外裝甲自動車鹵獲二臺、破壞二臺、牽引退却したもの四臺等である。

この戰鬪以來、外蒙軍は國樣を越え、我が兵力の小なるに乘じ、我が監視隊に對し飽くなき暴戾を逞しうしつゝある一方、巧な欺瞞宣傳をして頻りにその非を轉嫁しようとしてゐる。即ち四月二日外蒙當局で發表したものの如きは、全然彼我を轉倒したものである。又我が軍司令部の發表を反駁して飽まで我が軍の越境侵入を宣傳してゐるが、既に屢次に亘る虛構の逆宣傳に對しては今更辯明の要はないが、ウランバートル發二十六日夕ス通信は三月二十四日から二

十六日に亘り外蒙領ボイルノール附近ジャンガス及びハラヘン河邊で三回に亘り我と交戰し何れも吾に損害を與へてこれを退却させたと報じてゐる。然し事實は二十四日午後三時我が斥候數名がハラヘン河北部支流の線(明瞭なる滿領)に於て不法越境した外蒙軍の亂射を受けて止むなく之に應射したに止まるもので、二十五六の兩日は何等戰鬪を交へてはゐない。

思ふに外蒙監視兵が風聲鶴唳よりする退却の口實に、我が軍と交戰した如く虛僞の報告に出で、或は我が斥候等から發見されて彼の非を陰蔽するためにとんなからくりを公表したものらしく、その證左としては、三十一日の戰鬪以來、敵部隊の行動は頓に消極的となり、敵機の飛ぶものをみとめず、敵部隊の越境するものも見かけなくなつた。僅かに斥候が國境附近を戰々兢々として監視してゐるのを見受けるばかりである。

×

前記平本中尉は、澁谷部隊裝甲車小隊長として參加し、三十一日午後一時半タウラン東北方高地に於て、敵の騎兵約一個小隊を攻擊し之を東南に潰亂させ、その歸途敵の機械化部隊と遭遇した。當時中尉は部下の故障車を牽引し乍ら積雪の濕地帶を通過してゐたため、自ら行進が遲滯したところ、敵裝甲自動車十三臺の包圍を受け猛射を浴せられたのである。

中尉は冷靜沈着、砲塔の天蓋を排して四圍の敵を睥睨し、車側相摩する敵に對し猛烈な火力を加へ、遂に敵二車をして行進不能となる大損害を與へた。然し如何せん火砲を持つてゐなかつたので敵に徹底的損害を與へることは出來なかつた。

この危急に際しても中尉は尙部下の故障車を捨てず之を牽引し、以て故障車の敵手に奪はれるを防いだ。

が、時偶々、前後に迫つて來た敵の放つた三十七ミリ砲彈二彈は、中尉の搭乘してゐた車に命中し、後部甲鈑を貫通したので、茲に乘員二名とも壯烈な戰死を遂げてしまつたのだつた。

さあれ中尉の勇敢な戰鬪は、敵機械化部隊の心膽を寒からしめ、且つ枝隊主力の兵力集結を容易にし、敵に對する反擊の動機をつくつた。

落合特務曹長、佐野上等兵の奮戰もこれに劣らぬ勇敢なものだつた。

×

かくて外蒙古は、內には保守的な國民黨と急進的な青年同盟との軋轢あり、外にはソ聯の野心がのさばり、一方滿洲國領の內蒙古とは國境問題やかましく、全く噴火山上に座してゐるかの感がある。いつ爆發するかはかり知れない危險地帶である。

外蒙は果して滿洲國を敵として戰ふか、滿洲國は果して外蒙と決戰するか、これは吾々に興味を齎す唯一の殘された問題であるが、それは今更此處に云々しなくとも時の流れが自ら明示してくれることゝ思ふ。

滿蒙事報社編　定價五十錢（送料五錢）
滿洲官費給費學校案內

滿蒙事報社編　定價二十錢（送料三錢）
小資本で出來る滿洲の職業百五十種調べ

滿蒙事報社編　定價二十錢（送料二錢）
人を求むる新大陸は招く
滿洲の就職手引き

蒙古の全貌
〔定價二十錢〕
昭和十一年七月十日印刷
昭和十一年七月十二日發行
昭和十二年八月一日廿五版發行
滿蒙事報社編
東京市芝區三田四國町二六
發行者　角田恒
東京市牛込區山吹町二ノ五八
印刷所　東亞書房印刷部
東京市芝區三田四國町二六
發行所　東亞書房
振替東京八八三八〇番
電話　三田　三九八九番
鐵道各驛ホームスタンド一手販賣
鐵道保養會

不許複製

Printed in Japan

終